maxell

取扱説明書

ブルーレイディスク プレーヤー

形名 BD-P100

x.v.Color

このたびはブルーレイディスクプレーヤーをお買い求めいただき、ありがとうございます。

最初に この取扱説明書に記載の「安全上のご注意」(p.4～8)をお読みください。
本体の取扱いは、この取扱説明書をよくお読みになり、ご理解のうえ正しくご使用ください。
取扱説明書と保証書は大切に保管してください。

ECLOAJH
Printed in China　2VMN00187　★★★★★

この取扱説明書について

- 本書の操作説明は、リモコンでの操作を中心に説明しています。
- 「本機」、「本体」とは「お使いのプレーヤー」のことを、「他機」とは「本機以外の機器」のことを表します。
- 本機や本機の操作画面などで「ブルーレイディスク」を「BD」と表現していることがあります。
- 画面表示の細部や説明文、表現、ガイド、メッセージの表示位置などは、本書と製品で異なることがあります。
- 本書で例として記載している各画面の内容やキーワードなどは説明用です。
- 本書では専門的な用語が使われている場合があります。それらの用語については「用語説明」(p.61)をご覧ください。
- 本機の動作状態によっては、実行できない操作をしたときに画面にメッセージが表示される場合があります。本書では、画面にメッセージが表示される操作制限についての説明は省略している場合があります。

説明で使用するマークの意味

ご注意　本機を使う際に、気をつけていただきたい情報です。

メモ　本機を使う際の、補足説明やお知らせです。

■ 本機で使えるメディアとファイル形式

マーク	メディア／ファイル(コンテンツ)に関する詳細
BDAV	BDAV形式の動画が記録されたBD-RE ／ BD-Rディスク
BD-Video	映画ソフトなど市販のBD-Videoディスク、またはBDMV形式の動画が記録されたBD-RE ／ BD-Rディスク
AVCREC	AVCREC™方式の動画が記録されたDVD-RW ／ DVD-Rディスク
VR	VR方式の動画が記録されたDVD-RW ／ DVD-Rディスク
DVD-Video	映画ソフトなど市販のDVD-Videoディスク、またはVideo方式の動画が記録されたDVD-RW ／ DVD-Rディスク
AVCHD	AVCHD形式の動画が記録されたDVD-RW ／ DVD-Rディスク、SDカード※
JPEG	JPEG形式の静止画が記録されたBD-RE ／ BD-R ／ DVD-RW ／ DVD-R ／ CD-RW ／ CD-Rディスク、USBメモリ、SDカード※
音楽用CD	音楽用CD
DLNA 映像	映像が記録されたホームネットワーク上の機器
DLNA 音楽	音楽が記録されたホームネットワーク上の機器
DLNA 写真	JPEG形式の静止画が記録されたホームネットワーク上の機器

※ USBカードリーダー(市販品)を本機に接続すると、SDカードに記録されたJPEGファイルやAVCHDファイルを再生することができます。

付属品を確認する

□ の中に、チェックマーク(✓)を付けてご確認ください。
欠品などお気づきの点がございましたら、お買い上げの販売店にご連絡ください。

□ リモコン／ 1個

□ 単四形乾電池／ 2本
※リモコン動作確認用

□ 本書(取扱説明書) ／1冊

□ 保証書／ 1枚

梱包箱に貼付された保証書は、内容をご確認の上、大切に保管してください。製造番号は品質管理上重要なものです。
お買い上げの際には、本機背面の製造番号と保証書の製造番号が一致しているかご確認ください。

もくじ

1 はじめに

2 接続

3 基本設定

4 操作をする前に

5 使えるメディア

6 再生する

7 便利な機能

8 さまざまな情報

安全上のご注意 必ずお読みください

商品本体および取扱説明書には、お使いになる人や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容(表示・図記号)を理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

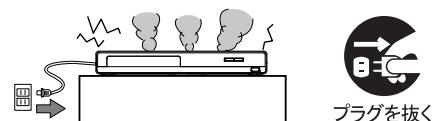
■ 表示の説明

表示	表示の意味
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷※1を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷※2を負う可能性が想定される内容および物的損害※3のみの発生が想定される内容を示しています。

※1：重傷とは、失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさしています。
※2：軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさしています。
※3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさしています。

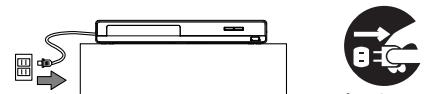
■ 図記号の例

図記号	図記号の意味
禁止	"⃠"は、**禁止**(してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
指示	"●"は、**指示**する行為の強制(必ずすること)を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
注意	"△"は、**注意**を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

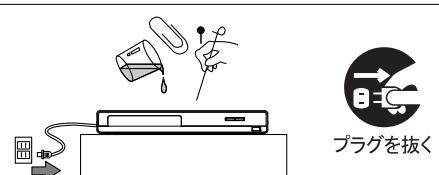
安全上のご注意

● イラストはイメージであり、実際の商品とは形状が異なる場合があります。

異常や故障のとき

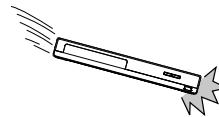
⚠警告

■ 煙が出ている、異臭や音がするときは、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜く

異常のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなる、異臭や音がしないことを確認して販売店に修理をご依頼ください。

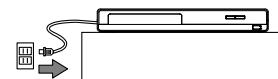
プラグを抜く

■ 画面が映らない、音が出ないなどの故障の場合には、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜く

ただちに販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜く

■ 内部に水や異物などが入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜く

ただちに販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
特に小さなお子様がいるご家庭ではご注意ください。

プラグを抜く

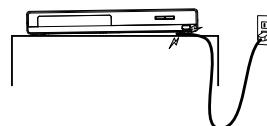
⚠警告

■ **本機を落としたり、破損した場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜く**

ただちに販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置するとき

⚠警告

■ **電源プラグをすぐに抜くことができるように本機を据え付ける**

本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと、火災・感電の原因となることがあります。本機は電源が「切」の状態でも、微弱な電流が流れています。

■ **ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない**

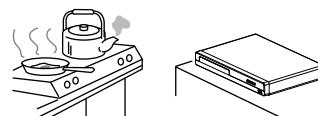
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

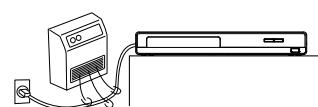
■ **水まわり(風呂、シャワー室)など水滴がかかる場所で使用しない**

火災・感電の原因となります。

■ **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない**

コードに傷が付いて、火災・感電の原因となります。
コードを敷物などで覆ってしまうと、気付かずに重い物をのせてしまうことがあります。

■ **コンセントや配線器具の定格を超える使い方や交流100V(50/60Hz)以外では使用しない**

たこ足配線など、定格を超えると発熱により、火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧以外では、火災・感電の原因となります。

⚠注意

■ **湿気やほこりの多い場所、調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所やエアコンの下など、水滴が落ちるおそれのある場所に置かない**

火災・感電の原因となることがあります。

■ **電源コードを熱器具に近づけない**

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

■ **温度の高い場所に置かない**

直射日光が当たる場所や閉め切った自動車内、熱器具の近くなどに設置されると、火災・感電の原因となります。また、破損、その他部品の劣化や変形・変色など、悪い影響を与えますのでご注意ください。

次ページへつづく

安全上のご注意 必ずお読みください・つづき

⚠注意

■ **移動させる場合は電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く**

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

● 機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してから行ってください。

プラグを抜く

■ **本機を医療機器の近く(同部屋)には設置しないでください**

医療機器の誤動作の原因となることがあります。

禁　止

使用するとき

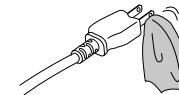
⚠警告

■ **本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品や薬品など液体の入った容器を置かない**

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

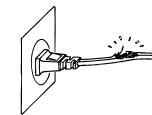
水ぬれ禁止

■ **本機に水をこぼしたり、ぬらしたりしない**

火災・感電の原因となります。

● 雨天、降雪中での使用は特にご注意ください。

水ぬれ禁止

■ **電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、乾いた布で拭いて取り除く**

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
定期的に(年に1度程度)清掃してください。

指　示

■ **電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、束ねたり、加熱したりしない**

コードが破損して、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。

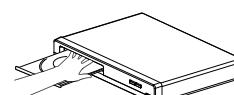
禁　止

■ **雷が鳴り出したら、電源プラグには触れない**

感電の原因となります。

接触禁止

■ **本機のトップカバーは開けない本機を分解、改造しない**

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

■ **ディスクトレイ開閉口に指などを入れない**

ディスクトレイ開閉口や内部に指を入れて突起に触れたり、ドアの開閉時に隙間に指をはさんだりすると、けがの原因となることがあります。

禁　止

■ **乗り物の中で使用しない**

落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

⚠警告

■ 屋外で使用しない

内部に水や異物が入る可能性があり、そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電池は乳幼児の手の届かない所に置いてください

- 誤って飲み込むと、身体に悪影響をおよぼします。
- 万一、飲み込んだと思われるときは、ただちに医師の治療を受けてください。

⚠注意

■ 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

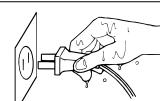
差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して
火災の原因となることがあります。
また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

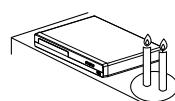
■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

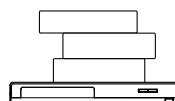
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

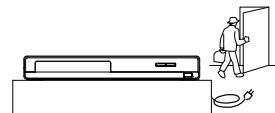
■ 電源プラグはゆるみがあるコンセントに接続しない

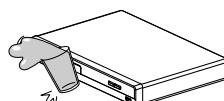
発熱して火災の原因となることがあります。
販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

■ 本機の上に乗らない

特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

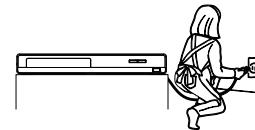
■ 機器の近くにローソクなどの裸火を置かない

火災・感電の原因となることがあります。

■ 本機の上に重い物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、
けがの原因となることがあります。

■ 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く

火災の原因となることがあります。

■ ディスクトレイ開閉口の前にものを置かない

ディスクトレイが開いたときに、ものに当たって倒れたり破損して
けがの原因となります。

●● ▶ 次ページへつづく

安全上のご注意 必ずお読みください・つづき

お手入れするとき

⚠注意

■ **お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行う**

接続したまま作業すると、感電の原因となることがあります。

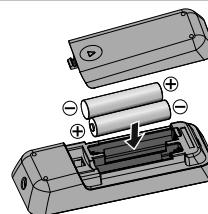
プラグを抜く

■ **可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しない**

清掃や可動部の潤滑用など、可燃性ガスを本機に使用すると、噴射される可燃性ガスが本機の内部に留まり、モーターやスイッチの接点、静電気の火花が引火して、爆発や火災が発生するおそれがあります。

禁　止

■ **年に一度程度は、内部の掃除を販売店などにご相談ください**

本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除作業および費用については販売店などにご相談ください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

■ **間違った電池の使い方をしない**

極性表示（プラスとマイナスの向き）に注意し、
表示どおりに入れてください。電池の破裂、液漏れにより、
火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁　止

- 乾電池は充電しないでください。
- 指定以外の電池は使用しないでください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 火、水の中に入れないでください。
- 分解、加熱しないでください。
- 日光、火などの過度の熱にさらさないでください。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しないでください。
- 液漏れした電池は使わないでください。
- 使い切った電池や長期間使用しない電池は、入れたままにしないでください。
電池の破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁　止

⚠注意

■ **電池が液漏れしたときは、素手で液をさわらないでください**

- 液が目に入ったときは、失明の原因になることがありますので目をこすらず、
すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になることがありますので、
すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 皮膚に炎症やけがの症状が現われたときには、ただちに医師の治療を受けてください。

禁　止

■ **乾電池を廃棄する場合は、プラス・マイナス端子に絶縁テープを貼るなどして絶縁状態にしてから「所在自治体の指示」にしたがって廃棄してください**

他の金属片など導電性のあるものと一緒に廃棄するとショートして、発火、破裂の原因となることがあります。

指　示

メモ

- 「安全上のご注意」をお読みになったあとは ➡「使用上のお願い」（p.9）も同様に、必ずお読みください。

使用上のお願い 必ずお読みください

■ 免責事項について

- 火災、地震や雷などの自然災害、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた障害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生ずる付随的な障害(事業利益の損失、事業の中断)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアなどとの意図しない組み合わせによる誤動作やハングアップ(操作不能)などから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

取扱いに関すること

- 非常時を除いて、電源が入っている状態では絶対に電源プラグをコンセントから抜かないでください。故障の原因となります。
- USB端子に異物を挿入しないでください。USBメモリまたはUSBカードリーダー以外のものを接続しないでください。また、コインなどの金属物や異物を挿入しないでください。事故や破損の原因となります。
- “高速起動”を“入”に設定しているときは、コンセントを抜かないでください。故障の原因となります。
- **移動させるときは…**
  引越しや修理などで本機を運搬する場合は、必ず本機用の梱包箱とクッション材をご使用ください。
- 本機を立てた状態で輸送しないでください。
- 殺虫剤や揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変色したり、塗装がはがれたりする原因となります。
- たばこの煙や煙を出すタイプの殺虫剤、ほこりなどが機器内部にはいると故障の原因になります。
- 長時間ご使用になっていると上面や背面が熱くなりますが、故障ではありません。
- 本機は精密電子機器です。長くご愛用いただくためにできるだけ丁寧に取扱ってください。

使用しないときは

- **ふだん使用しないときは…**
  ディスクを取り出し、電源を切ってください。
- **長期間使用しないときは…**
  電源プラグを抜いてください。

置き場所に関すること

- 本機は水平で安定した場所に設置してください。ぐらぐらする机や傾いている所など不安定な場所で使わないでください。ディスクがはずれるなどして、故障の原因となります。本機を設置する場所は、本機の重さが十分に耐えられることを確認してください。また本機が落下した場合に、けがや故障の原因となるため、高い場所への設置はしないでください。
- 本機をテレビやラジオなどの近くに置く場合には、本機を使用中、組み合わせによっては画像や音声に悪い影響を与えることがあります。万一、このような症状が発生した場合はテレビやラジオなどからできるだけ離してください。
- 直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど温度が高くなる場所や、熱源になるような機器の上には置かないでください。故障の原因になります。
- 超音波式加湿器のそばに置かないでください。超音波式加湿器をご使用の場合、水質によっては水道水に含まれるカルキやミネラル成分がそのまま霧化され、本機内部に白い粉状のものが入り込んで故障の原因になる恐れがありますのでご注意ください。

お手入れに関すること

- お手入れの際は、本機の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 本体のよごれはやわらかい布(ガーゼ等)で軽く拭き取ってください。ティッシュペーパーや硬い布は使わないでください。
- お手入れの際、アルコール、ベンジン、シンナーなどで拭いたり、殺虫剤などの揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触したままにしないでください。変質したり、塗料がはがれるなどの原因となります。
- 洗剤を直接本機にかけないでください。水滴が内部に入ると、故障の原因になります。操作パネル部分の汚れは、柔らかいきれいな布(生地の表面が起毛された綿素材など)で軽く拭き取ってください。
- 汚れがひどいときには、水で100倍以上に薄めた中性洗剤に布をひたしよく絞ってから拭き取り、乾いた布で仕上げてください。特に、次の洗剤などは亀裂や変色、傷付きの原因となりますので使用しないでください。
  酸・アルカリ性洗剤、アルコール系洗剤、みがき粉、粉石鹸、OAクリーナー、カーワックス、ガラスクリーナー類、化学ぞうきんなど

- 油汚れ等が付いたときは、弱い中性洗剤を薄めたものを柔らかい布に含ませたものを固く絞って使用し、その後、温水を含ませて固く絞った布で十分に拭き取ってください。(この処置を行ってもわずかに表面が変質することがあります。)

次ページへつづく

使用上のお願い 必ずお読みください・つづき

日本国内用です

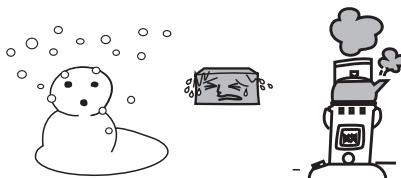
- 本機を使用できるのは日本国内だけです。
  外国では電源仕様が異なり使えません。
  This recorder is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.

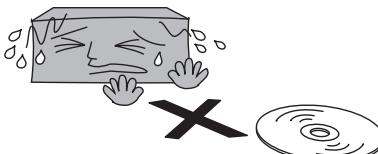
音量について

- 市販のBD ／ DVD-Videoの中には、音量が音楽用CDなどの他のソフトよりも小さく感じられる場合があります。これらのディスクの再生のためにテレビやアンプ側の音量を上げたときには、再生が終わったあとに必ず音量を下げてください。

再生するときの制約

- 市販のBD ／ DVD-Videoなどは、ディスク制作者側の意図で再生状態が決められていることがあります。本機はディスク制作者が意図した内容に従って再生をするため、操作したとおりに動作しないことがあります。再生するディスクに付属の取扱説明書もご覧ください。
- ボタン操作中にテレビ画面に“⃠”が表示されることがあります。“⃠”が表示されたときは、その操作ができないことを示します。

結露（露付き）について

結露は本機やディスクを傷めます。よくお読みください。

- 例えば、よく冷えたビールをコップにつぐと、コップの表面に水滴がつきます。これを“結露（露付き）”といいます。この現象と同じように、本機の内部のピックアップレンズや部品、部品内部などに水滴がつくことがあります。

“結露”はこんなときに発生します。

- 本機を寒いところから、急に暖かいところに移動したとき
- 暖房を始めたばかりの部屋や、エアコンなどの冷風が直接あたるところに置いたとき
- 夏季に、冷房の効いた部屋・車内などから急に温度・湿度の高いところに移動したとき
- 湯気が立ちこめるなど、湿気の多い部屋に置いたとき

結露が発生しそうなときは、本機をご使用にならないでください。

- 結露が発生した状態で本機をお使いになりますと、ディスクや部品を傷めることがあります。時間をおいて、結露がなくなってからお使いください。

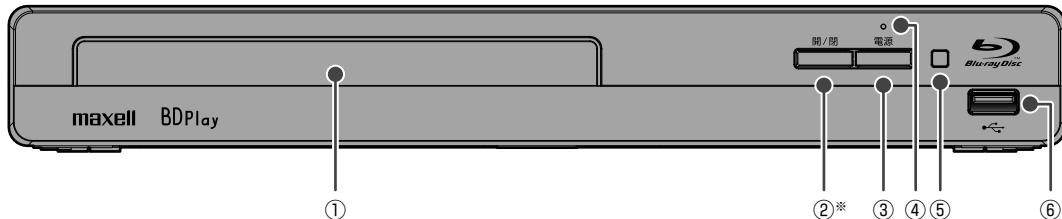
本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき

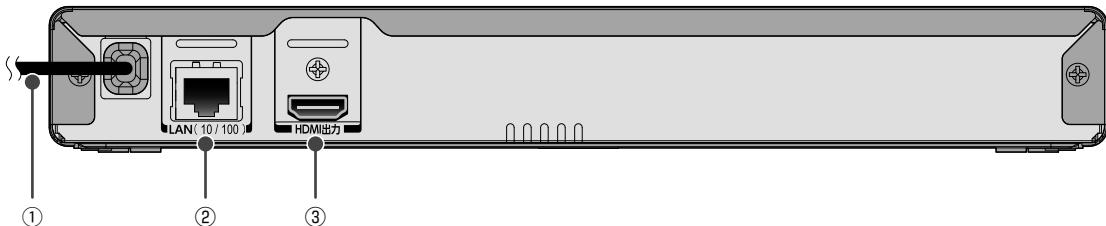
廃棄の際は、所在自治体の条例または規則にしたがってください。

- 本機を廃棄・譲渡などする場合には、各種“初期化”（p.49）を行うことをおすすめします。また、お客様または第三者が本機の操作を誤ったとき、または故障・修理のときなどにディスクに保存されたデータなどが変化・消失するおそれがあります。これらの場合について、当社は責任を負いません。

各部の紹介

リモコン

■ 乾電池の入れかたは（p.17）をご覧ください。

※ ▶ または トレイ開/閉 ● でも本機を起動させることができます。

各部の紹介・つづき

本体前面

① **ディスクトレイ**

② **開／閉ボタン**※
ディスクトレイを開閉する(p.30)

③ **電源ボタン**
本機の電源を入／切する

④ **電源ランプ(緑色)**
本機の電源が「入」のときに緑色で点灯
起動中または本体ソフトウェア(ファームウェア)更新中に点滅

⑤ **リモコン受光部**(p.17)

⑥ **USB端子**
USB機器を接続する(p.30)

※ このボタンでも本機を起動させることができます。

本体背面

① **電源コード**
必要な接続が終わってからつなぐ(p.16)

② **LAN端子**
ネットワーク機能を使う場合は有線で接続する(p.16)

③ **HDMI出力端子**
テレビのHDMI入力端子と接続する

- 本体内部の放熱をよくするために、本体と壁やテレビ台などの周辺物との間は、適度な空間を空けてください。(p.13)

接続のすすめ方

本機とテレビをつなぎます。(p.14)

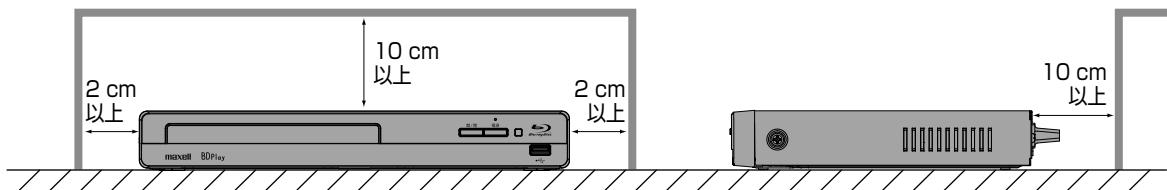
必要に応じて

AVアンプでデジタル音声を楽しみたいときはHDMI入出力対応のAVアンプを本機とテレビの間につなぎます。(p.14)

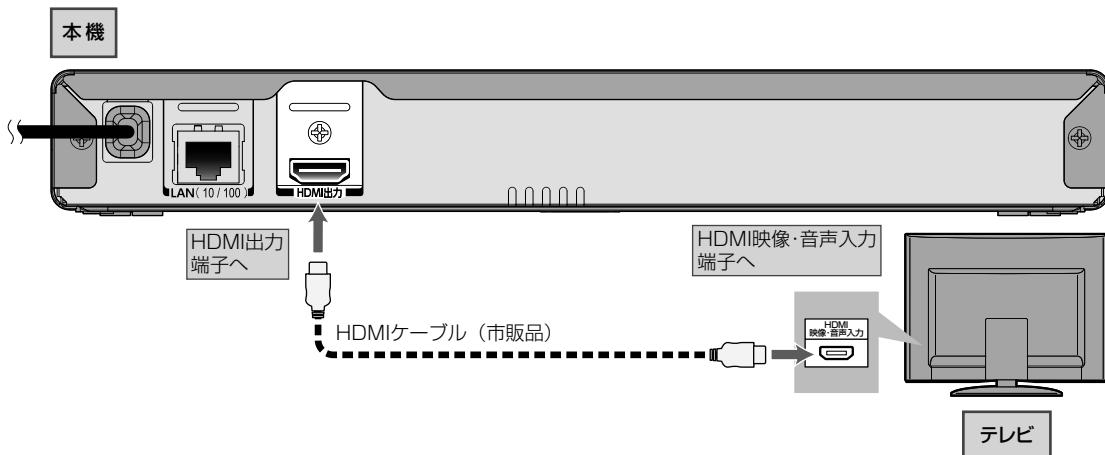
必要に応じて

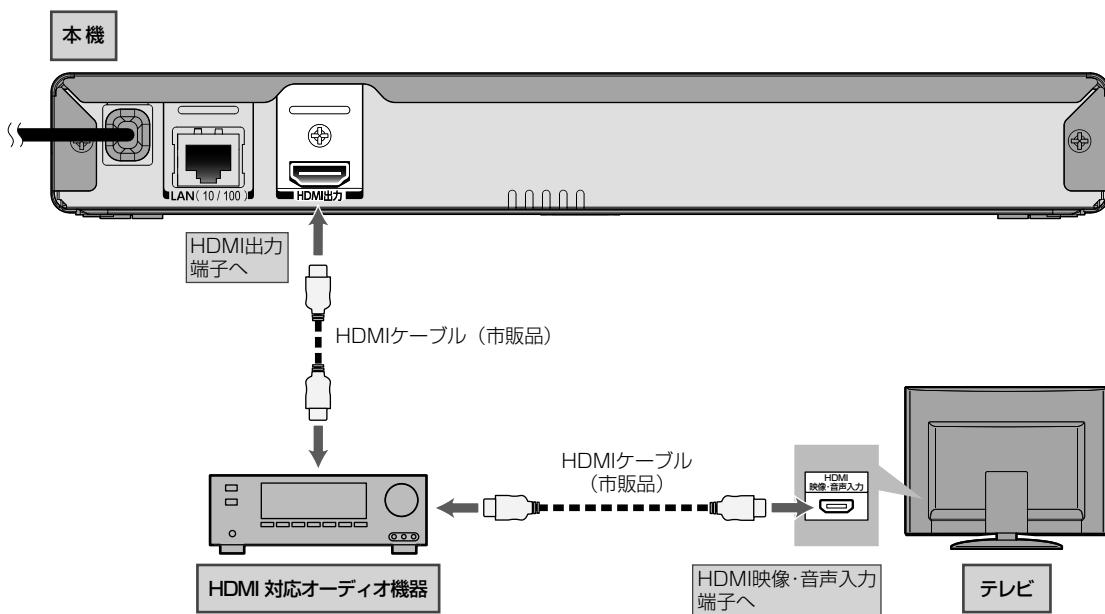
BD-Live™やホームネットワーク機能を利用したいときはネットワークにつなぎます。(p.15)

すべての接続が終わったら電源プラグをコンセントに差し込みます。(p.16)

これで準備(接続)は終わりです。基本設定に進んでください。

つなぐときのご注意

- **接続するときは、必ず本機および接続するテレビやモニターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
  電源プラグはすべての接続が終わってから、コンセントに接続してください。(p.16)

据え付けについて

据え付けるときのご注意

① 本機の周囲は放熱のための空間を十分に確保してください。
② 密閉したケースや棚などに設置したりすると内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。
③ 強い衝撃や振動が加わらない場所に設置してください。
④ 性能や安全性を維持するために、本機は床置きで使用しないでください。

本機をテレビやAVアンプにつなぐ

テレビとつなぐ

AVアンプとつなぐ

PCM7.1ch対応のアンプと接続すると、BD-Videoの7.1ch音声を楽しむことができます。また、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS-HD®の各音声を出力できるアンプと接続すると、それぞれの音声を楽しむことができます。（この接続をした場合、テレビから音声が出ないことがありますので、アンプに接続したスピーカーなどから出力してください。詳しくは、AVアンプやテレビの取扱説明書をご覧ください。）

ご注意

- HDMIケーブルは、HDMI規格に準拠したHDMIロゴのあるHigh Speed HDMIケーブルをご使用ください。
- HDMIケーブルは、コネクター部の大きさや形状によって接続できないことがあります。
- HDCPに対応していないテレビに接続すると、映像が正しく表示されないことがあります。
- 本機とAVアンプを接続したときは、準備完了後、接続した機器に合わせて ホーム →“設定”→“HDMI接続設定”→“音声出力設定”の設定を変更してください。（p.47）

本機をネットワークにつなぐ

本機とDLNA対応機器をホームネットワークでつなぐことで、接続機器側に記録されているファイルを、本機で再生することができます。さらに、ブロードバンド環境をお持ちの場合は、インターネットを利用してBD-Live™機能が楽しめるようになります。

■ すでにブロードバンド環境をお持ちの場合は

- 次のことをご確認ください。
  - 回線業者やプロバイダーとの契約
  - 必要な機器の準備
  - ADSLモデムやブロードバンドルーターなどの接続と設定
- 回線の種類や回線業者、プロバイダーにより、必要な機器と接続方法が異なります。
  ADSLモデムやブロードバンドルーター、ハブ、スプリッター、ケーブルは、回線業者やプロバイダーが指定する製品をお使いください。
- お使いのモデムやブロードバンドルーター、ハブの取扱説明書も併せてご覧ください。
- 本機では、ブロードバンドルーターやブロードバンドルーター機能付きADSLモデムなどの設定はできません。
  パソコンなどでの設定が必要な場合があります。
- ADSL回線をご利用の場合は
  - ブリッジ型ADSLモデムをお使いの場合は、ブロードバンドルーター(市販品)が必要です。
  - USB接続のADSLモデムなどをお使いの場合は、ADSL事業者にご相談ください。
  - プロバイダーや回線業者、モデム、ブロードバンドルーターなどの組合わせによっては、本機と接続できない場合や追加契約などが必要になる場合があります。
  - ADSLモデムについてご不明な点は、ご利用のADSL事業者やプロバイダーにお問い合わせください。
  - ADSLの接続については専門知識が必要なため、ADSL事業者にお問い合わせください。
- FTTH(光ファイバー)回線をご利用の場合は
  - 接続方法などご不明な点については、プロバイダーや回線業者へお問い合わせください。

■ ブロードバンド環境をお持ちでない場合は

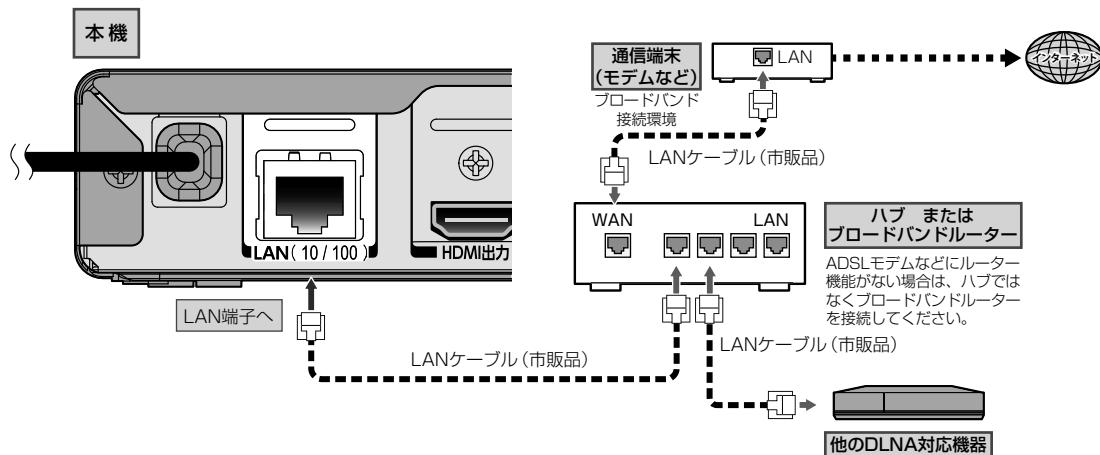
- インターネットを利用する場合は、プロバイダーおよび回線業者と別途ご契約(有料)する必要があります。
  詳しくは、プロバイダーまたは回線業者にお問い合わせください。

ご注意

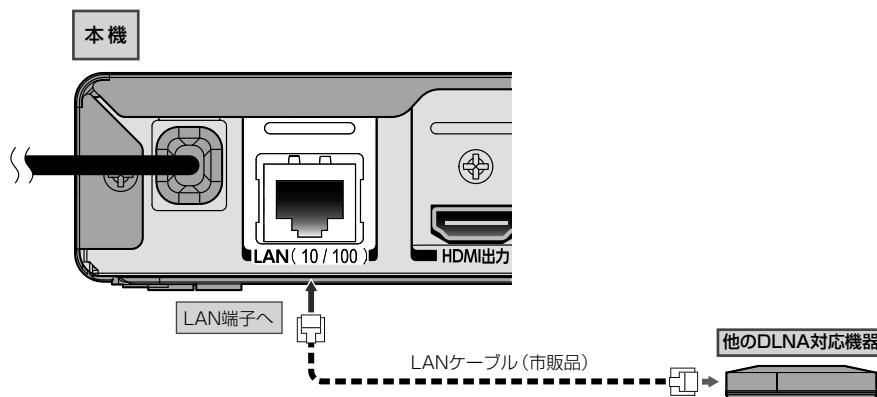
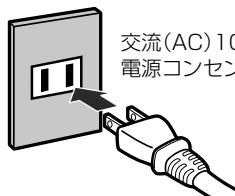
- **本機をネットワーク接続したときは、ネットワーク接続の設定が必要です。(p.21)**
- **LANケーブルは、カテゴリー 5以上対応のストレートケーブル(市販品)をご使用ください。**
- **本機からはインターネットを使用してウェブサイトを閲覧することはできません。**

メモ

- **ブロードバンドルーターなどの設定で本機のMACアドレスが必要な場合は、ホーム→“設定”→“ネットワーク設定”→“ネットワークステータス表示”画面で確認できます。(p.48)**
- **パソコンや外出先などから本機を遠隔操作することはできません。**

■ BD-Live™について

本機は、BD-Live™機能付きのBD-Video(BD-ROM Profile 2.0)に対応しています。
本機をインターネットに接続することで、特別映像や字幕などの追加コンテンツや、ネットワーク対戦ゲームなど、様々な機能を楽しむことができます。

- BD-Live™で利用できる様々な機能は、ディスクにより異なります。くわしい機能や動作については、それぞれのディスクの画面表示や説明をご覧ください。
- BD-Live™機能を利用するには、本機をインターネットに接続し、必要な設定を行ってください。接続のしかたについては「ハブまたはブロードバンドルーターを使って接続する場合」(p.16)を、設定のしかたについては「ネットワークの設定をする」(p.21)をご覧ください。
- ディスクによっては、“BD-Live接続設定”(p.48)を変更する必要があります。
- “BD-Live接続設定”が“無効”に設定されている場合は、BD-Live™コンテンツからのインターネットアクセスができません。
- お使いのネットワーク環境によっては、ネットワーク接続に時間がかかったり、接続できなかったりする場合があります。
- BD-Live™対応ディスクの再生中、本機またはディスクの識別IDがコンテンツプロバイダーに送信されることがあります。インターネット接続を制限するには、“BD-Live接続設定”(p.48)を変更してください。

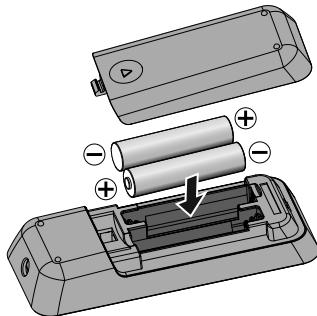
本機をネットワークにつなぐ・つづき

ハブまたはブロードバンドルーターを使って接続する場合

本機と他の機器を直接接続する場合

直接接続では、以下のインターネットを利用する機能は使用できません。

- ネットワークによる本体ソフトウェア（ファームウェア）の更新（p.23）
- 本体ソフトウェア（ファームウェア）の自動更新確認（p.23）
- BD-Live™機能

電源コードをつなぐ

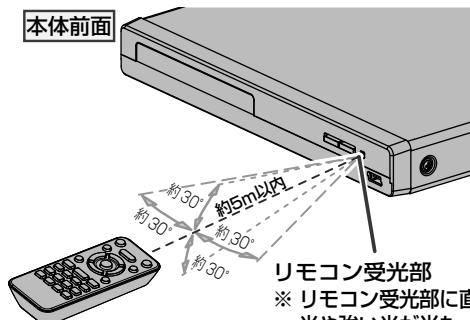
すべての接続が終わったら、電源コードをつなぐ

- 電源プラグを交流（AC）100Vの電源コンセントに差し込むと、本機が通電状態になります。

リモコンの準備

リモコンに乾電池を入れる

1 リモコン裏面のフタをはずす

2 「－」側を先に入れたあと、「＋」側を入れる

- 付属の単四形乾電池（1.5V 2本）をお使いください。

3 リモコン裏面のフタを取り付ける

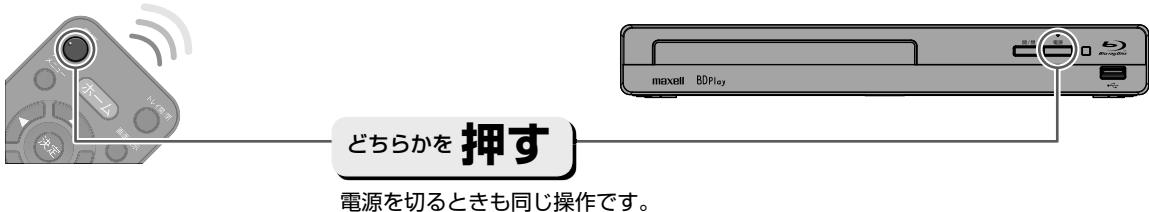
リモコンの使用範囲について

リモコンは、本体のリモコン受光部に向けて使用してください。

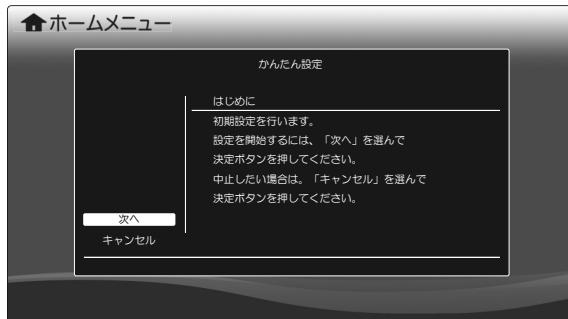
※ リモコン受光部に直射日光や強い光が当たっていると、リモコンが動作しないことがあります。

距離･･･　本機正面より5m以内
角度･･･　本機正面より
左右 約30°以内（5m以内）
上 約30°以内（5m以内）
下 約30°以内（5m以内）

ご注意

リモコンの乾電池について

- 乾電池が完全に入らない状態で使うと、乾電池が発熱し、やけどや故障の原因となることがあります。
- 次のような場合は、乾電池が消耗しています。すべての乾電池を新しいものに交換してください。
  - リモコンの使用距離が短くなってきたときや、一部のボタンを押しても動作しなくなってきたとき。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換することをおすすめします。
- 公称電圧1.5Vを超える電池などは、リモコン誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 本機のリモコンは単４のマンガン乾電池または、アルカリ乾電池をご使用ください。
- 長期間ご使用にならないときは、乾電池を取り出してから保管してください。
- 不要となった乾電池は、お住まいの地域の条例にしたがって処理してください。

リモコンの取扱いについて

- 落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。
- 水をかけたり、ぬれたものの上に置いたりしないでください。

本機の映像をテレビで見る

1. テレビの電源を入れる
2. テレビの入力切換で、本機が接続されているHDMI入力に切り換える
3. 本機の電源を入れる

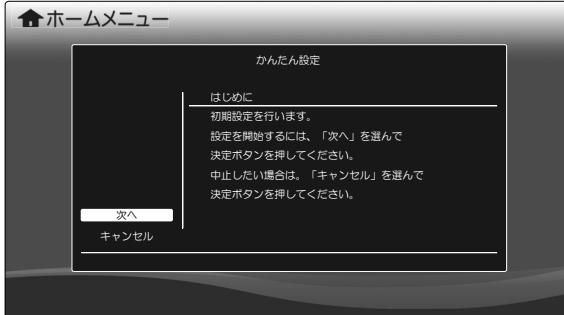
電源を切るときも同じ操作です。

■ 以下の画面が表示されたときは

- “かんたん設定”(p.19)を行ってください。

“かんたん設定”をする

接続が終わって初めて本機の電源を入れたときは、テレビ画面に“かんたん設定”画面が表示されます。画面の案内やガイドにしたがって、次の順で設定してください。

- “かんたん設定”実行中は、電源プラグを抜いたり電源を切ったりしないでください。

準備
- テレビの電源を入れる
- テレビの入力切換で、本機が接続されている入力に切り換える
- ネットワークを利用するときは、あらかじめ本機をネットワークに接続しておく(p.15)

1 電源 を押して本機の電源を入れる

メモ
- “かんたん設定”の開始画面が表示されます。

2 “次へ”が選ばれているので、そのまま 決定 を押す

高速起動を設定する

3 ▲/▼で高速起動を設定するかどうかを選び、決定 を押す

“入”: “切”に設定したときよりも高速で起動しますが、待機時の消費電力が増えます。

“切”: “入”に設定したときよりも起動に時間がかかりますが、待機時の消費電力を抑えることができます。

CECリンク制御を設定する

4 ▲/▼でCECリンク制御をするかどうかを選び、決定 を押す

“入”: 本機とテレビの動作が連動するリンク機能を利用することができます。

“切”: リンク機能を利用しません。

メモ
- CECリンク制御機能を使うためには、本機と接続するテレビがＣＥＣリンク機能に対応している必要があります。詳しくは、「CECリンク機能を使う」(p.20)をご覧ください。

本体ソフトウェア(ファームウェア)の自動更新確認を設定する

5 ▲/▼で本機の新しい本体ソフトウェア(ファームウェア)の有無を自動で確認するかどうかを選び、決定 を押す

“入”: 本機をインターネットに接続している場合、最新の本体ソフトウェア(ファームウェア)の有無を自動で確認します。

“切”: 最新の本体ソフトウェア(ファームウェア)の有無を自動で確認しません。

ネットワーク接続を設定する

ネットワークを利用しない時は、▲/▼/◀/▶で“キャンセル”を選び、決定 を押してください。“かんたん設定”を終了します。

6 ▲/▼で“自動”を選び、決定 を押す

- 自動的に各項目が設定され、設定完了後は接続テスト結果が表示されます。

ホームネットワーク　：成功
インターネット　　　：成功
ネットワーク接続に成功しました。

”インターネット”が”成功”の場合

- 手順 5 で“入”を選んだときは...
  “終了”を選んで 決定 を押すと、ソフトウェア更新の確認画面が表示されます。手順 7 へ進んでください。
- 手順 5 で“切”を選んだときは...
  “終了”を選んで 決定 を押すと、“かんたん設定”を終了します。

ネットワーク接続ができていないときは

- “失敗”が表示されます。ネットワークの接続状態が正しいかご確認ください。
- “やり直し”を選んで 決定 を押すと、もう一度接続テストが始まります。
- “終了”を選んで 決定 を押すと、“かんたん設定”を終了します。

“かんたん設定”をする・つづき

メモ

● IPアドレスを自動で割り振る機能がないルーターをお使いの場合は、▲/▼で“手動”を選び、「ネットワークを手動で設定する」(p.21)の設定を行ってください。

最新の本体ソフトウェア（ファームウェア）を確認する

7 ◀/▶で本機の本体ソフトウェア（ファームウェア）の更新を確認するかどうかを選び、決定を押す

“はい”： 最新の本体ソフトウェア（ファームウェア）に更新できるか確認します。手順8へ進んでください。
本機の本体ソフトウェア（ファームウェア）が最新の場合は、確認画面が表示されるので決定を押してください。“かんたん設定”を終了します。

“いいえ”： 更新を確認しないで、“かんたん設定”を終了します。

8 ◀/▶で本体ソフトウェア（ファームウェア）を更新するかどうかを選び、決定を押す

“はい”： 本体ソフトウェア（ファームウェア）のダウンロードが開始されます。完了後に自動で本機が再起動し、ソフトウェアの更新が始まります。完了後に再び本機が再起動し、“かんたん設定“を終了します。

“いいえ”： 本体ソフトウェア（ファームウェア）をダウンロードしないで、“かんたん設定”を終了します。

CECリンク機能を使う

CECリンク機能とは？

CECリンク対応機器（本機など）とCECリンク対応テレビをHDMIケーブルでつなぐことで、機器とテレビの連動操作が行えるようになる機能のことです。本機では、CECリンク機能を使用することで以下のようなことが可能になります。

● 本機の電源を入れて以下のボタンを押すと、テレビが自動的に本機が接続されているHDMI入力に切り換わります。

※ ディスクメニュー は、本機にBD-VideoまたはDVD-Video、AVCHDが記録されたディスクが入っているときのみ有効です。

● 電源 を2秒以上押すと、本機とテレビの電源が切れます。

● テレビの電源を切ると、自動的に本機の電源も切れます。

CECリンク機能を使うには、以下の手順を行って“CECリンク制御”の設定を“入”にしてください。

準備

● 本機とCECリンク対応テレビをつないでおく（接続のしかたは「本機をテレビやAVアンプにつなぐ」(p.14)をご覧ください。）
● テレビ側でCECリンクの設定をしておく（詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。）

1 ホームを押し、“設定” ➡ “HDMI接続設定” ➡ “CECリンク制御” ➡ “入”の順に選び、決定を押す

ご注意

● 接続するテレビにより操作できる機能は異なります。すべてのHDMI CEC対応テレビとの連係動作を保証するものではありません。
● 接続機器によってはお客様の意図しない動作をする場合があります。このようなときは“CECリンク制御”を“切”にしてください。

ネットワークの設定をする

本機をホームネットワークにつないで、DLNA対応機器などに記録されたコンテンツを本機で再生するときや、BD-Live™機能をブロードバンド経由で利用するための設定を行います。

準備
- 本機をネットワークとつなぐ(p.15)

本機をネットワークに接続する

1. ホーム を押し、ホームメニュー画面を表示する
2. ▲/▼/◀/▶で"設定"を選び、決定 を押す
3. ▲/▼で"ネットワーク設定"を選び、決定 を押す
4. ▲/▼で"ネットワーク接続設定"を選び、決定 を押す
5. ▲/▼で"設定開始"を選び、決定 を押す
6. ▲/▼で"自動"または"手動"を選び、決定 を押す

以下の設定を行ってください。

"自動"： 「ネットワークを自動で設定する」(本ページ)へ進んでください。

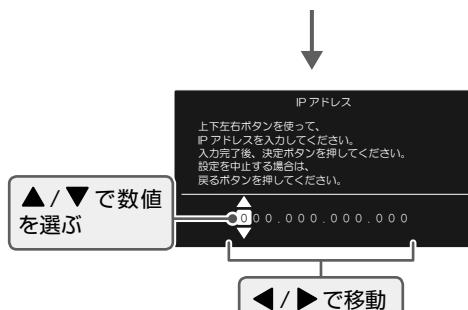
"手動"： IPアドレスを自動で割り振る機能がないルーターをお使いの場合は、「ネットワークを手動で設定する」(本ページ)へ進んでください。

ネットワークを自動で設定する

"ネットワーク接続設定"の各項目を自動で設定し、接続テストを行います。すでに設定済みの場合は、新しく取得された設定値に更新されます。(プロキシの設定はクリアされます。)

1. ▲/▼で"自動"を選び、決定 を押す
   - 自動的に各項目が設定され、ネットワークの設定が完了します。
2. ▲/▼で"終了"を選び、決定 を押す

ネットワークを手動で設定する

1. ▲/▼で"手動"を選び、決定 を押す
2. 各項目に数値を入力する

- 入力を終えたら、決定 を押してください。

IPアドレス：
ネットワーク接続している他の機器(パソコンなど)に設定されているIPアドレスの最後の数値を、本機以外の機器で使われていない数値に変更して入力してください(0 ～ 255の範囲で入力可能です。)

(例) 他の機器のIPアドレス設定が"192.168.10.12"のときは、"192.168.10.223"(223の部分は12以外のお好みの数値)で設定してください。

サブネットマスク：
他の接続機器と同じ数値を入力してください。

デフォルトゲートウェイ：
他の接続機器と同じ数値を入力してください。

プライマリDNS：
他の接続機器の優先DNSサーバーと同じ数値を設定してください。

セカンダリDNS：
他の接続機器の代替DNSサーバーと同じ数値を設定してください。

ネットワークの設定をする・つづき

他の接続機器と本機をLANケーブルで直接つなぐときの設定例

本機のネットワーク設定

項目	設定内容
IPアドレス	192.168.1.15
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
プライマリDNS	192.168.1.1

接続機器のネットワーク設定

項目	設定内容
IPアドレス	192.168.1.20
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
プライマリDNS	192.168.1.1

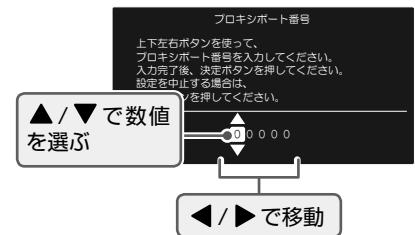
3 ▲/▼/◀/▶で“次へ”を選び、決定を押す

4 プロキシ設定が必要な場合は▲/▼で“はい”を選び、手順5に進む
不要な場合は▲/▼で“いいえ”を選び、手順6に進む

5 プロキシアドレスとプロキシポート番号を設定する

本機をブロードバンド環境でお使いになり、プロバイダーから指示があるときは、この設定を行ってください。

① プロキシアドレスを入力する

▲/▼/◀/▶で文字を選び、決定を押す

“SP”	スペースを挿入します。
“a/A/@”	小文字/大文字/特殊文字(@!?など)を切り換えることができます。 黄 を押しても同じ操作ができます。
“CLR”	入力した文字を削除します。 緑 を押しても同じ操作ができます。
“<-”	カーソルを左に移動します。
“->”	カーソルを右に移動します。
“決定”	入力を完了し、次の画面へ進みます。 青 を押しても同じ操作ができます。

- 入力できるのは、英数字と記号のみです。
- 赤 を押すと、前の画面に戻ります。

② ▲/▼/◀/▶でプロバイダーが指定したポート番号を入力し、決定を押す

- 入力を終えたら、決定を押してください。

6 ▲/▼で“はい”を選んで決定を押し、接続テストを開始する

- 接続テスト終了後にテスト結果が表示されます。
- “終了”を選び、決定を押してください。

ネットワーク接続ができていないときは

- “失敗”が表示されます。ネットワークの接続状態やネットワーク設定で入力された数値が正しいかご確認ください。
- “やり直し”を選んで決定を押すと、もう一度接続テストが始まります。
- “戻る”を選んで決定を押すと、手順2からの設定をやり直すことができます。

かんたん設定を行っているときは

- このあとp.20の手順7へ進んでください。

メモ

- **プロキシアドレスとは？**
  ブラウザの代わりに目的のサーバーに接続し、ブラウザにデータを送る中継サーバーのアドレスです。プロバイダーから指定されるアドレスを入力します。(例：proxy_server.ne.jp)
- **プロキシポート番号とは？**
  プロキシアドレスと共に、プロバイダーから指定される番号です。(例：8000)

ソフトウェアを更新する

ご購入後も本機をより快適にご利用いただくために、本体ソフトウェア（ファームウェア）の更新版が公開されることがあります。本体ソフトウェア（ファームウェア）の更新版が公開された場合は、インターネットやディスク、USBメモリを利用して、更新することができます。

インターネットを利用して更新する

インターネットを利用してサーバーから本体ソフトウェア（ファームウェア）の更新版をダウンロードして更新することができます。（更新されていないときは、ダウンロードされません。）

準備
- 本機とネットワークを接続しておく（p.15）
- ネットワークの接続設定をしておく（p.21）

1 ホーム を押し、"設定" ➡ "その他設定" ➡ "ソフトウェア更新" ➡ "ネットワークによる更新"の順に選び、決定 を押す

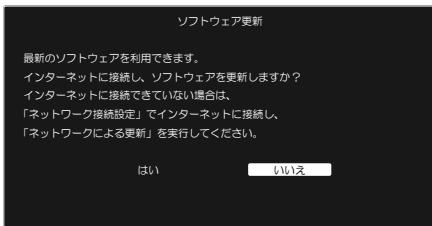
2 ◀ / ▶ で"はい"を選び、決定 を押す

- 本体ソフトウェア（ファームウェア）の確認が始まります。

新しい本体ソフトウェア（ファームウェア）が公開されているときは

確認メッセージが表示されるので、"はい"を選んでください。
本体ソフトウェア（ファームウェア）のダウンロードが開始されます。完了後に自動で本機が再起動し、ソフトウェアの更新が始まります。完了後に再び本機が再起動します。

ご注意
- サーバーに接続できない場合はメッセージが表示されます。確認後、決定 を押してください。

本体ソフトウェア（ファームウェア）が公開されているか自動で確認するには

"ソフトウェア更新確認"機能を"入"にすると、定期的にサーバーをチェックし、新しい本体ソフトウェア（ファームウェア）が公開されている場合は画面にメッセージを表示します。

① ホーム を押し、"設定"→"その他設定"→"ソフトウェア更新確認"の順に選び、決定 を押す

② ▲ / ▼ で"入"を選び、決定 を押す

新しい本体ソフトウェア（ファームウェア）が公開されているときは

- 本機の電源を「入」にしたときにメッセージが表示されます。

- 更新する場合は、◀ / ▶ で"はい"を選んで 決定 を押してください。"いいえ"を選ぶとメッセージが消え、更新されません。

ソフトウェアを更新する・つづき

ディスクやUSBメモリを使って更新する

ディスクやUSBメモリに最新の本体ソフトウェア（ファームウェア）をダウンロードし、更新します。

準備

- 記録可能なディスクまたはUSBメモリを準備する

  以下のディスクがご使用いただけます
  - BD-RE ／ BD-R ／ DVD-RW ／ DVD-R ／ CD-R ／ CD-RW

- 当社ホームページから最新のソフトウェアをダウンロードし、ディスクまたはUSBメモリに保存しておく
  - 本体ソフトウェア（ファームウェア）は、ディスクまたはUSBメモリに１つだけ保存してください。
  - 本体ソフトウェア（ファームウェア）は、ディスクまたはUSBメモリの第一階層に保存してください。
  - ダウンロード方法の詳細については、当社ホームページをご覧ください。

1. ホーム を押し、“設定” ➡ “その他設定” ➡ “ソフトウェア更新”の順に選び、決定 を押す
2. ▲／▼で“ディスクによる更新”または“USBメモリによる更新”を選び、決定 を押す
3. ◀／▶で“はい”を選び、決定 を押す
4. ディスクを入れる、またはUSBメモリを接続する
5. 確認メッセージが表示されるので、◀／▶で“はい”を選び、決定 を押す
   - 本体ソフトウェア（ファームウェア）の更新が開始され、完了後に自動で本機が再起動します。

ご注意

- 本体ソフトウェア（ファームウェア）更新中は、絶対に電源プラグを抜かないでください。また、USBメモリによる更新中は、USBメモリも抜かないでください。
- 本体ソフトウェア（ファームウェア）更新中は、ディスクトレイの開閉ができません。
- 本体ソフトウェア（ファームウェア）更新後は、本書と本機で画面や動作の一部が一致しなくなることがあります。

画面表示の見かた

ホームメニュー

本機の電源を入れたときは、ホームメニュー画面が表示されます。ホームメニューから再生したいメディアを選択したり、さまざまな機能の設定を行うことができます。

- 他の画面を表示しているときに、ホーム を押すとホームメニュー画面に切り換わります。(再生中は、再生を停止してホームメニュー画面に切り換わります。)

項目	内容
ディスク	● ディスクに記録されているコンテンツを再生します。
ホームネットワーク	● ホームネットワークに接続された他機のコンテンツを再生します。
USB	● USB機器のコンテンツを再生します。
設定	● さまざまな機能の設定を行います。詳しくは、「いろいろな設定を変える(設定メニュー)」(p.46)をご覧ください。

表示されるアイコンについて

メディアの出し入れ

▽	ディスクトレイ開
△	ディスクトレイ閉
読み込み中	ディスク、USB機器の読み込み中

メディアの種類

DISC	ディスク
BD-RE ／ BD-R	BD-RE ／ BD-R
BD-VIDEO	BD-Video
BDAV ORG	BDAV(オリジナル)
BDAV PL	BDAV(プレイリスト)
BDMV	BDMV
DVD-RW ／ DVD-R	DVD-RW ／ DVD-R
DVD-VIDEO	DVD-Video
VR ORG	VRモード(オリジナル)
VR PL	VRモード(プレイリスト)
VIDEO	ビデオモード
AVCREC ORG	AVCREC™モード(オリジナル)
AVCREC PL	AVCREC™モード(プレイリスト)
USB DATA	USB機器
CD-DA	音楽用CD
CD DATA	データCD
AVCHD	AVCHD形式のディスク
DMP	DLNA対応機器

主な動作

□ 停止	停止
レジューム	つづき再生の停止 (レジュームポイント設定状態)
▷ 再生	再生
⏸ 一時停止	再生一時停止
▷ × 1.3	早見再生(音声付き早送り)
▷▷ 早送り	早送り
◁◁ 早戻し	早戻し
I▷	スロー再生
◁I	逆スロー再生
▷▷I	正方向のスキップ
I◁◁	逆方向のスキップ
○⇨ スキップ	可変スキップ
リプレイ	可変リプレイ

その他

TT	タイトル
CHP	チャプター
TR	トラック
🕒	再生時間(タイム)

ご注意

- テレビ画面に"⃠"が表示されるときは、現在その操作を行うことができません。

次ページへつづく

画面表示の見かた・つづき

再生中の情報を表示する

再生中に現在の再生の情報を表示することができます。

1 再生中に 画面表示 を押す

2 確認したい情報が表示されるまで、繰り返し 画面表示 を押す

映像を再生しているときの表示例

タイトル名情報※1

タイトル・チャプター番号情報

タイムバー※2

① タイトル名
② 動作状態
③ リピート再生中に表示
④ タイトル番号、チャプター番号、再生時間

TT：現タイトル番号／総タイトル数
CHP：現チャプター番号／総チャプター数
（時計）：現再生時間

⑤ メディアの種類
⑥ 現再生時間
⑦ 再生中の現在位置
⑧ 総再生時間

※1 ホームネットワークの再生中のみ表示されます。
※2 BD-VideoおよびAVCHDの再生中は表示されません。

写真を再生しているときの表示例

トラック番号情報

ファイル名情報

① 現ファイル番号／総ファイル数
② 動作状態
③ リピート再生中に表示
④ メディアの種類
⑤ ファイル名
※ ディスク／ USBの再生中のみ表示されます。

画面表示を消したいときは

画面表示が消えるまで繰りかえし 画面表示 を押す

メモ

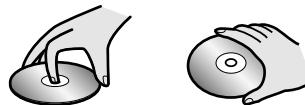
- 再生するメディアやファイルの種類によって、表示される情報が変わります。

本機で使えるメディアについて

本機で再生ができるメディア

	再生できるメディア	ロゴ	再生できるファイル※1
BD	BD-RE（Ver. 2.1）	Blu-ray Disc	BDMV BDAV JPEG
BD	BD-R（Ver. 1.1 / 1.2 / 1.3）	Blu-ray Disc	BDMV BDAV JPEG
BD	BD-Video リージョンコードに「A」の表示があるディスク	Blu-ray Disc	-
DVD	DVD-RW	DVD RW	AVCREC VR AVCHD JPEG
DVD	DVD-R	DVD R	AVCREC VR AVCHD JPEG
DVD	DVD-Video リージョンコードに「2」や「ALL」の表示があるディスク	DVD VIDEO	-
CD	CD-RW	COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable COMPACT disc ReWritable	JPEG
CD	CD-R	COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable COMPACT disc Recordable	JPEG
CD	CD-DA（音楽用CD）	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	-
USB	USBメモリ	-	JPEG
SD	SDカード※2	-	JPEG AVCHD

※1 すべてのファイルの再生を保証するものではありません。
※2 USBカードリーダー（市販品）を本機に接続すると、SDカードを再生することができます。

ディスクについて

■ ブルーレイディスク／DVD／CD全般

次のような場合は、正常に再生できません。

- 記録状態が悪い、ディスクの特性不良、傷、汚れ、本機のレンズの汚れ、結露などがあるとき。
- パソコンなどで作成されたディスクを本機で再生するとき。このようなディスクを本機に入れて、ディスクが取り出せなくなった場合は、「ディスクトレイの開閉ができない。」(p.58)をご覧になり、対処してください。
- PAL方式など、NTSC方式以外で記録されたDVDディスク。
- 権利者に無断で作成されたディスク。
- クローズド・キャプション（Closed Caption）の再生。

ディスクの持ちかた

- ディスクの端または中央の穴を持ち、再生面（光っている面）には手を触れないでください。

- 指紋が付いたり汚れたときは、水を含ませた柔らかい布でふいたあと、からぶきしてください。布でふく方向は、ディスクの中心から外側に向けてふいてください。市販のレコードクリーナーやベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。

ディスクの保管について

- 使用後は、所定のケースに入れて保管してください。ケースに入れずに重ねたり、ななめに立てかけて置くと、変形や反りの原因となります。
- 直射日光の当たる場所や熱器具の近く、締め切った自動車内など、高温になる場所に放置しないでください。

次のようなディスクは使わないでください！

- ディスク自体の破損や本体の故障の原因となります。
  - 傷が付いているディスク
  - ラベルやシールが貼られているディスク
  - のりがはみ出しているディスク
  - ひび割れ、変形、接着剤などで補修したディスク
  - 六角形など、特殊な形状のディスク

8cm盤のディスクを使用するときは

- ディスクはトレイの中央の溝に確実にはめてください。
- 8cmアダプターなしで使用できます。

本機で使えるメディアについて・つづき

■ BD-RE ／ BD-R

- ファイナライズ（クローズ）していないBD-Rは、正常に再生できないことがあります。
- BD-RE Ver1.0（カートリッジタイプ）は、再生できません。
- マルチボーダー（マルチセッション）で記録したBD-RE/BD-Rは、追加して記録された部分の再生ができません。

■ DVD-RW ／ DVD-R

- ファイナライズしていないディスクは、正常に再生できないことがあります。
- DVD-RAMは再生できません。
- マルチボーダー（マルチセッション）で記録したDVD-RW/DVD-Rは、追加して記録された部分の再生ができないことがあります。

■ BD ／ DVD-Video

- ディスクによっては、ソフト制作者の意図により本書の記載どおりに動作しないことがあります。詳しくは、ディスクの説明書をご覧ください。

■ 音楽用CD

- 音楽用CDは、ディスクレーベル面に COMPACT disc DIGITAL AUDIO マークの入ったものなど、JIS規格に合致したディスクをご使用ください。
- MP3ファイル形式で録音されたディスクには対応しておりません。
- CD規格外の音楽用CD（コピーコントロール付きCDなど）は正常に再生できません。
- データファイルが混在している音楽用CDは再生できません。

ご注意

- **対応ディスクであっても、すべての再生を保証するものではありません。**

USB機器について

- 本機はFAT16／FAT32形式でフォーマットされたUSB機器に対応しています。
- USBメモリまたはUSBカードリーダー以外の機器は接続しないでください。USB機器や本機の故障、記録されているデータの破損の原因になります。（携帯電話、スマートフォン、タブレットは使用できません。）また、本機とUSB機器をUSBハブ経由やUSB延長ケーブルで接続した場合の動作は、保証していません。
- 本機のUSB端子を使用して、携帯電話やポータブルオーディオプレーヤーなどの充電は行わないでください。本機の故障の原因となります。

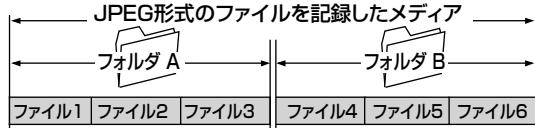
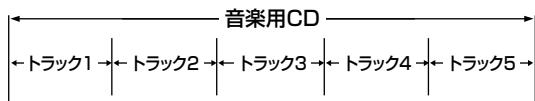
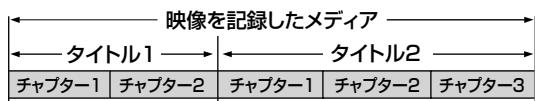
ご注意

- **すべてのUSBメモリおよびUSBカードリーダーで動作を保証するものではありません。**
- **USB機器は、本機のすべての動作を停止させてから抜いてください。**
- **USB機器の再生中・読み込み中は、次のことを行わないでください。USB機器や本機の故障、記録されているデータの破損の原因となります。**
  - 本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりする。
  - USB機器を取り外す。

SDカードについて

本機はUSBカードリーダーを使ってSDカードを再生することができます。SD規格に準拠した以下のSDカードに対応しています。

カード	形式
SDメモリーカード（8MB～2GB）	FAT16形式でフォーマットされたSDメモリーカード
miniSDカード（16MB～2GB）	
microSDカード（256MB～2GB）	
SDHCメモリーカード（4GB～32GB）	FAT32形式でフォーマットされたSDHCメモリーカード
miniSDHCメモリーカード（4GB～8GB）	
microSDHCメモリーカード（4GB～16GB）	

- 4GB以上のSDカードは、SDHCカードのみ使用できます。

ご注意

- **すべてのSDカードで動作を保証するものではありません。**
- **パソコンでフォーマットされたSDカードは、本機では使用できないことがあります。**
- **SDXCカードには対応しておりません。**

ディスクやUSBメモリの記録構成について

- 一般に、市販のBD-Videoやレコーダーなどで録画した番組は、「タイトル」という大きい区切りと「チャプター」という小さい区切りに分かれています。
- 音楽用CDの場合は、「トラック」で区切られています。
- JPEG形式のファイルが記録されたメディアは、「フォルダ」という大きな区切りと、「ファイル」という小さな区切りで構成されます。パソコンなどでJPEG形式のファイルを作成する際、ファイルはフォルダに分けて記録させることができます。

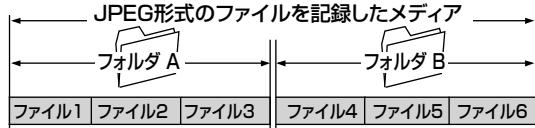
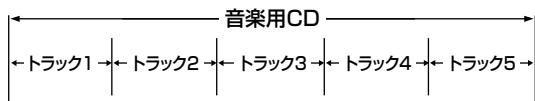
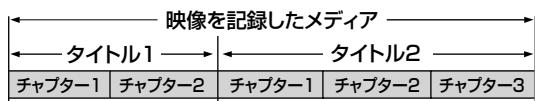
（例）

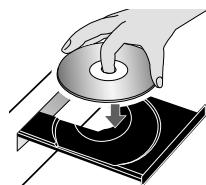
映像を記録したメディア

タイトル1		タイトル2		
チャプター1	チャプター2	チャプター1	チャプター2	チャプター3

タイトル：　ディスクに記録された番組などのコンテンツデータです。

チャプター：　タイトルの内容を、場面や曲ごとにさらに小さく区切ったものです。

トラック：　音楽用CDの内容を曲ごとに区切ったものです。

ファイル：　ひとつひとつのデータのことです。

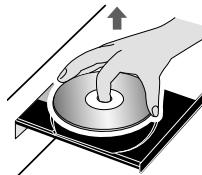
フォルダ：　タイトルやファイル、フォルダなどの集合を含む階層のことです。

ディスクの準備

ディスクを入れる

1 トレイ開/閉 を押して、ディスクトレイを開く

2 ディスクを、ラベル面を上にしてトレイの上に置く

- 両面ディスクを使用するときは再生したい面を下にしてください。

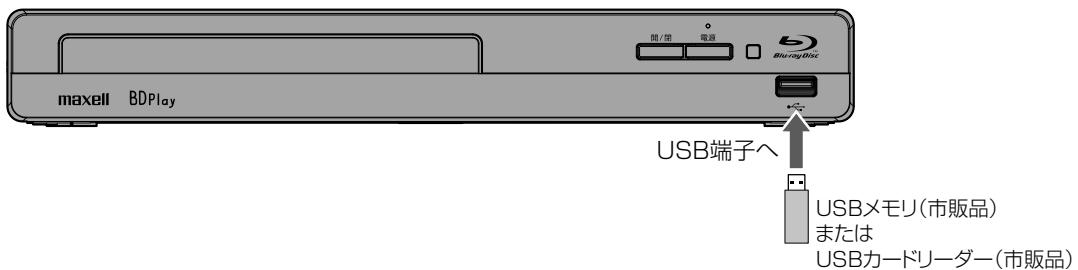
3 トレイ開/閉 を押して、ディスクトレイを閉める

- ディスクの認識と読み込みを行うため、ディスクが使用可能になるまでしばらく時間がかかります。
- ディスクによっては、このあと自動的に再生が始まるものがあります。

ディスクを取り出す

1 トレイ開/閉 を押して、ディスクトレイを開く

2 ディスクを取り出す

3 トレイ開/閉 を押して、ディスクトレイを閉める

メモ

- 本体前面の[開/閉]ボタンを押してもディスクトレイの開/閉ができます。

USB機器の準備

USB機器を接続する

本機ではUSBメモリに記録されたJPEGファイルを再生できます。

また、USBカードリーダー(市販品)を接続すると、SDカードに記録されたJPEGファイルやAVCHDファイルを再生することができます。

■ USB機器を取り外すには

再生が停止していることを確認し、ゆっくりと引き抜いてください。

- USB機器は、本機のすべての動作を停止させてから抜いてください。
- USB機器の再生中・読み込み中は、次のことを行わないでください。USB機器や本機の故障、記録されているデータの破損の原因となります。
  - 本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりする。
  - USB機器を取り外す。

ディスクの映像や音楽を再生する

BD-Video、DVD-Video、AVCHDを再生する

BD-Video DVD-Video AVCHD

1 ディスクを入れる

- ディスクによっては、自動的に再生が始まるものがあります。
- ディスクのメニュー画面が表示される場合は画面の指示に従って操作してください。

2 自動的に再生を開始します

- 自動的に再生を開始しない場合は、◀/▶で“ディスク”を選び 決定 を押してください。
- ディスクによっては、メニュー画面が表示されるものがあります。

ディスクのメニューやポップアップメニューから操作するときは

（メニューやポップアップメニューがある場合のみ）
ディスクのメニューを表示して、いろいろな操作ができます。ディスクソフトによってメニューやポップアップメニューの内容が異なりますので、操作のしかたはディスクソフトの説明書をお読みください。ここでは、一般的な操作の例を示します。

① 再生中に ディスクメニュー を押す

- メニュー選択画面が表示されます。

BD-Video	ポップアップメニュー トップメニュー
DVD-Video AVCHD	トップメニュー メニュー

② ▲/▼で表示したいメニューを選び、決定 を押す

③ ▲/▼/◀/▶でお好みのタイトルや項目を選び、決定 を押す

再生を停止するときは

■ を押す

- 再生が停止します。
（レジュームポイントが記憶されます。詳しくは、「再生開始位置について」(p.33)をご覧ください。）

メモ

- USBカードリーダー（市販品）を接続すると、SDカードに記録されたAVCHDファイルを再生することができます。以下の手順で再生してください。

① ホーム を押してホームメニュー画面を表示する

② ◀/▶で“USB”を選び、決定 を押す

- ファイル一覧画面が表示されます。
- 種類の異なるファイルが書き込まれたSDカードをUSBカードリーダーに接続している場合は、コンテンツ選択画面が表示されます。◀/▶で“AVCHD”を選び、決定 を押してください。

ご注意

- 本機はDVDに記録されたAVCHDファイル(「～～.m2ts」や「～～ .mts」、「～～ .m2t」)を単体で再生することはできません。ファイルとフォルダの相対関係がAVCHDの仕様にそった構造にしてください。
- AVCHDファイルをDVDやSDカードなどに記録するには、AVCHDに対応した機器/ソフトウェアを使用してください。(詳しくは、機器/ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。)

サブメニューから数字を入力するときは

ディスクのメニュー画面などで、メニュー項目を選ぶ場合やBDの再生中に数字を入力する必要がある場合に、サブメニューから数字を入力することができます。

① ディスクのメニュー画面や再生中に サブメニュー を押す

② ▲/▼で“数字入力”を選び、決定 を押す

- 数字入力画面が表示されます。

③ ▲/▼で数字を入力し、決定 を押す

- 2桁以上の数値を入力するときは、◀/▶で桁の移動ができます。（再生するコンテンツによって表示される桁数が異なります。）

ご注意

- ディスクによっては、数字入力できない場合があります。

ディスクの映像や音楽を再生する・つづき

BD(BDAV)やDVD(AVCREC/VR)を再生する

BDAV AVCREC VR

BDAVで記録されたBD-RE/-RディスクやAVCREC、VRで記録されたDVD-RW/-Rディスクにプレイリストを設定しているときは、“オリジナル”または“プレイリスト”を選んで再生することができます。

1 ディスクを入れる

- タイトル一覧画面が表示されます。

タイトル一覧画面の見かた

① 再生中のタイトルのプレビュー再生
- 音声付き再生になります。

② ディスク名

③ タイトル名、録画日

④ 操作ガイド

⑤ 選択中のタイトル

2 ▲/▼で再生するタイトルを選ぶ

3 ▶または決定を押して、再生を始める

- サブメニューを押して、サブメニューから再生開始位置を選んで再生することもできます。詳しくは、「再生開始位置について」(p.33)をご覧ください。

再生を停止するときは

■を押す

- 再生が停止し、タイトル一覧画面が表示されます。（レジュームポイントが記憶されます。詳しくは、「再生開始位置について」(p.33)をご覧ください。）

オリジナルとプレイリストのタイトル一覧を切り換えるときは

タイトル一覧画面で (緑) を押す

- タイトル一覧画面でサブメニューを押して、サブメニューから切り換えることもできます。

タイトル一覧で表示するタイトルの並び順を変えたいときは

① タイトル一覧画面でサブメニューを押して、サブメニューを表示する

② “並び順”を選び、決定を押す

- 並び順の種類が表示されるので、希望の並び順を選び、決定を押してください。

記録順	• 記録された順に並び替えます。
番組名順	• 番組名（タイトル名）順に並び替えます。
新しい順	• 録画日が新しい順に並び替えます。 • 録画日が記録されていない場合は、並び順の最後になります。
古い順	• 録画日が古い順に並び替えます。 • 録画日が記録されていない場合は、並び順の最初になります。

③ ▲/▼で“決定”を選び、決定を押す

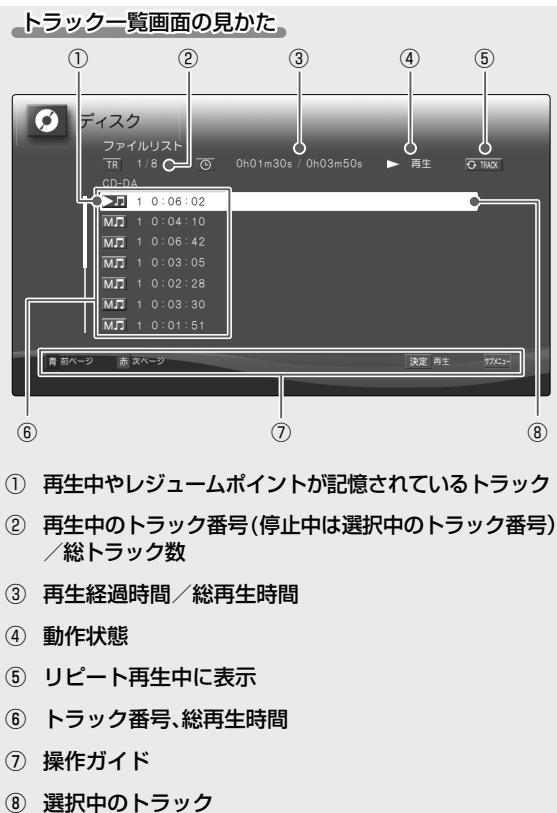
種類の異なるファイルが入っているディスクの映像を再生する

AVCREC AVCHD JPEG

1 ディスクを入れる

- コンテンツ選択画面が表示されます。

2 ◀/▶で“AVCHD”または“AVCREC”を選び、決定を押す

次ページへつづく

- “AVCHD”を選んだときは、自動的に再生が始まります。詳しくは「BD-Video、DVD-Video、AVCHDを再生する」(p.31)をご覧ください。
- “AVCREC”を選んだときは、タイトル一覧画面が表示されます。詳しくは「BD(BDAV)やDVD(AVCREC/VR)を再生する」(p.32)をご覧ください。
- JPEGファイルを再生したい場合は“写真”を選んでください。詳しくは「写真を再生する(スライドショー)」(p.40)をご覧ください。

音楽用CDを再生する

音楽用CD

1 ディスクを入れる

- トラック一覧画面が表示されます。

トラック一覧画面の見かた

① 再生中やレジュームポイントが記憶されているトラック
② 再生中のトラック番号(停止中は選択中のトラック番号)／総トラック数
③ 再生経過時間／総再生時間
④ 動作状態
⑤ リピート再生中に表示
⑥ トラック番号、総再生時間
⑦ 操作ガイド
⑧ 選択中のトラック

2 ▲/▼で、お好みのトラックを選び、▶または決定を押す

再生を停止するときは

■を押す

- 再生が停止し、トラック一覧画面が表示されます。(レジュームポイントが記憶されます。詳しくは、「再生開始位置について」(本ページ)をご覧ください。)

再生開始位置について

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD 音楽用CD

再生中に■を押すと、再生停止位置(レジュームポイント)が記憶されます。

- ディスクにつき一箇所だけレジュームポイントが記憶されます。ディスクに複数のタイトルが記録されている場合は、最後に再生していたタイトルのレジュームポイントが記憶されます。
- 本機の電源を切った後でも、レジュームポイントは記憶されています。

BD-Video DVD-Video AVCHDの場合

- ホーム画面で“ディスク”を選び、▶または決定を押すと、続きから再生します。

BDAV AVCREC VRの場合

- タイトル一覧画面で再生したいタイトルを選び、を押すと、“最初から再生”または“続きから再生”を選ぶことができます。
- “オリジナル”と“プレイリスト”のタイトル一覧を切り換えたときは、レジュームポイントが解除されます。

音楽用CDの場合

- 次回、タイトル一覧画面で同じタイトルを選び、▶または決定を押すと、続きから再生します。

メモ

- 次のような場合、記憶したレジュームポイントが解除されます。
  - タイトルの終わりまで再生したとき
  - ディスクトレイを開けたとき
  - 視聴制限レベルが変更されたとき
  - レジューム情報が記録されているときに、再度■を押したとき

ご注意

- ディスクによっては、レジューム機能を利用できない場合があります。

6 再生する

いろいろな再生

早く見る／聞く（早送り／早戻し）

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD 音楽用CD DLNA 映像 DLNA 音楽

再生中に、◀◀、▶▶を押す

- 押すたびに、再生速度が5段階で切り換わります。（音楽用CDやホームネットワークを再生した場合は、3段階で切り替わります。）
- ▶を押すと、通常再生に戻ります。
- 一部を除き、音声は出ません。

ご注意

- **ホームネットワークの映像や音楽は、早送り/早戻しできないことがあります。**

音声付きで早く見る（早見再生）

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD

再生中に、▶を1回押す

- ▶を押すと、音声付きの約1.3倍速の早見再生になります。
- 早見再生中に▶を押すと、通常再生に戻ります。

再生を一時的に止める（再生一時停止）

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD JPEG 音楽用CD DLNA 映像 DLNA 音楽 DLNA 写真

再生中にⅡを押す

- 再生が一時停止します。
- ▶またはⅡを押すと、再生を再開します。

ゆっくり見る（スロー再生）

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD DLNA 映像

再生一時停止中に、▶▶を押す

- 押すたびに、再生速度が3段階で切り換わります。
- ▶を押すと通常再生に、Ⅱを押すと再生一時停止に戻ります。

ご注意

- **ホームネットワークの映像は、スロー再生できないことがあります。**

コマを進める（コマ送り）

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD DLNA 映像

再生一時停止中に、▶▶|を押す

- 押すたびに、画面が1コマずつ進みます。
- ▶またはⅡを押すと、通常再生に戻ります。

見たい／聞きたいところまでとばす（スキップ）

再生中に、|◀◀、▶▶|を押す

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD

- 押すたびに、前後のチャプターに移動します。
- |◀◀の場合、1回目は現在再生中のチャプターの先頭に移動します。

音楽用CD DLNA 映像 DLNA 音楽

- 押すたびに、前後のファイルに移動します。
- |◀◀の場合、1回目は現在再生中のファイルの先頭に移動します。

JPEG DLNA 写真

- 押すたびに、前後のファイルに移動します。

メモ

- **早送り、早戻し、スロー再生中にスキップをした場合、移動先からは通常の速度で再生されます。**

可変スキップ／可変リプレイ

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD DLNA 映像

再生中に（可変リプレイ）、（可変スキップ）を押す

- 押すたびに、“再生設定”の“可変スキップ”または“可変リプレイ”で設定した時間だけ再生位置が移動します。（p.48）

メモ

- **早送り、早戻し、スロー再生中に可変スキップ／可変リプレイをした場合、移動先からは通常の速度で再生されます。**

再生中の写真を回転させる

JPEG DLNA 写真

再生中に◀/▶を押す

- 押すたびに、画像表示が90°ずつ回転します。
（回転した画像情報は記憶されません。）

繰り返し再生する(リピート再生)

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD JPEG 音楽用CD DLNA 映像 DLNA 音楽 DLNA 写真

1 再生中に、サブメニューを押してサブメニューを表示する

2 ▲/▼で"リピート"を選び、決定を押す

3 ▲/▼で希望のリピート再生を選ぶ

リピート オフ

リピート再生をやめるときは

■を押すと再生が停止し、リピートも解除されます。

- 再生を止めずにリピートだけ解除する場合は、再度サブメニューで"リピート"を選び、"オフ"の設定にします。(手順3)

リピートの種類について

再生中のメディアやファイルによって、選べるリピート再生の種類が異なります。

再生するメディア／ファイル	サーチの種類
BD-Video DVD-Video AVCHD	CHAPTER チャプターリピート TITLE タイトルリピート オフ
BDAV AVCREC VR	CHAPTER チャプターリピート TITLE タイトルリピート ALL オールリピート オフ
音楽用CD	TRACK トラックリピート ALL オールリピート RANDOM ランダムリピート オフ
JPEG DLNA 映像 DLNA 写真 DLNA 音楽	TRACK トラックリピート ALL オールリピート※ RANDOM ランダムリピート GROUP グループリピート オフ ※ホームネットワークの再生では選べません。

チャプターリピート： 再生中のチャプターを繰り返し再生します。

タイトルリピート： 再生中のタイトルを繰り返し再生します。

トラックリピート： 再生中の映像／音楽／写真を繰り返し再生します。

グループリピート： フォルダ内の映像／音楽／写真を繰り返し再生します。

オールリピート： メディア内のすべての映像／音楽／写真を繰り返し再生します。

ランダムリピート： フォルダ内の映像／音楽／写真をランダムな順序で再生します。

オフ： リピート再生しません。

ご注意

- **以下の操作で、再生位置がリピート範囲を超えた場合はリピートが解除されます。**
  - スキップ
  - チャプター／トラック／タイムサーチ
  - 可変スキップ
  - 可変リプレイ

いろいろな再生・つづき

番号や時間を指定してとばす(サーチ)

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD JPEG 音楽用CD DLNA 映像 DLNA 音楽 DLNA 写真

1 再生中に、サブメニューを押してサブメニューを表示する

2 ▲/▼で“サーチ”を選び、決定を押す

3 ▲/▼で希望のサーチを選ぶ

サーチ CHP 1/8

● 押すたびにサーチの種類が切り換わります。

4 ▶ で変更したい数値へ移動し、▲/▼で数値を変更し、決定を押す

● 指定した番号または時間に再生位置が移動します。

入力を間違えたときは

◀ / ▶ で修正したい数値に移動し、入力し直してください。

サーチの種類について

再生中のメディアやファイルによって、選べるサーチの種類が異なります。

再生するメディア／ファイル	サーチの種類
BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD	CHP チャプターサーチ TT タイトルサーチ タイムサーチ
音楽用CD	TR トラックサーチ タイムサーチ
DLNA 映像	タイムサーチ
JPEG DLNA 写真 DLNA 音楽	TR トラックサーチ

チャプターサーチ： 指定したチャプターを頭出しします。

タイトルサーチ： 指定したタイトルを頭出しします。

トラックサーチ： 指定したトラックやファイルを頭出しします。

タイムサーチ： 指定した時間で頭出しします。

再生中の各種設定切り換え

再生中に、音声や字幕の言語、カメラアングルなどを切り換えることができます。

音声(言語)を切り換える

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD 音楽用CD DLNA 映像

再生中のタイトルに複数の音声(主音声/副音声など)や音声言語が記録されているときは、再生したい音声を選ぶことができます。

1 再生中に、音声切換を押して、音声情報を表示する

- 再生中は、サブメニューを押してサブメニューを表示し、"音声"を選ぶことでも音声情報を表示できます。

2 ◀/▶/▲/▼で希望の音声を選ぶ

- 音声切換を押して切り換えることもできます。

BD-Video

▲/▼で"プライマリ"か"セカンダリ"を選んだあとに、決定で音声切り換えエリアへ移動し、▲/▼で音声を切り換える。

音声 プライマリ 1 日本語 DolbyD Multi-ch /3
セカンダリ 2 英語 DolbyD+ Multi-ch /3
[デコード形式]: DolbyD

- "音声設定"の"BD-HD音声設定"が"HD音声"のときにはセカンダリ音声は出力されません。(p.46)
- セカンダリの場合は、◀/▶で最後に選んだ音声と"オフ"を切り換えることができます。

BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD DLNA 映像

- 複数の音声ストリームがある場合は、左側の項目がハイライトされるので、▲/▼で希望の音声を選択してください。

音声 1 日本語 AAC 2ch /2
[デコード形式]: AAC

- 選択している音声が二カ国語の場合は、▲/▼で"主音声"→"副音声"→"主/副"に切り換えることができます。

音声 1 日本語 / 英語 AAC 二重音声 /1 主音声
[デコード形式]: AAC

音楽用CD

- 選択している音声がステレオの場合は、▲/▼で"ステレオ"→"L-ch"(左音声)→"R-ch"(右音声)に切り換えることができます。

音声 1 日本語 AAC 2ch /2 ステレオ
[デコード形式]: AAC

ご注意

- 以下の場合、音声切換できません。
  - 早見再生中
  - スロー再生中
  - 早送り/早戻し中
  - コマ送り中
  - 一時停止中
- DTS-CDの場合、音声を切り換えることができません。

字幕(言語)を切り換える

BD-Video DVD-Video VR AVCHD

再生中のタイトルに複数の字幕言語が記録されているときは、字幕の言語や表示/非表示を選ぶことができます。

1 再生中に、字幕切換を押して、字幕情報を表示する

- 字幕情報はサブメニューを押して、サブメニューから"字幕"を選ぶことでも表示できます。

2 ▲/▼で希望の字幕を選ぶ

BD-Video

BD-Videoの場合、プライマリ映像用の字幕、セカンダリ映像用の字幕、また、字幕のスタイルを、それぞれ設定することができます。

▲/▼で"プライマリ"、"セカンダリ"または"スタイル"を選んだあとに、決定で字幕へ移動し、▲/▼で設定を切り換える

DVD-Video VR AVCHD

▲/▼で希望の字幕を選ぶ

字幕 1 日本語 / 1

メモ

- ◀/▶で最後に選んだ字幕言語と"オフ"を切り換えることができます。
- 字幕言語を切り換えてから表示されるまで時間がかかることがあります。

ご注意

- 以下の場合、字幕切換できません。
  - 早見再生中
  - スロー再生中
  - 早送り/早戻し中
  - コマ送り中
  - 一時停止中
- ホームネットワークで配信されている映像の場合、字幕を切り換えることはできません。

再生中の各種設定切り換え・つづき

再生映像のノイズを低減する（ノイズリダクション）

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD DLNA 映像

1. 再生中に、サブメニューを押してサブメニューを表示する
2. ▲/▼で“ノイズリダクション”を選び、決定を押す
3. ▲/▼で希望の設定を選び、決定を押す

ノイズリダクション オフ

“オフ”：ノイズリダクションを無効にします。
“オン”：ノイズが軽減されます。

再生映像の標準画質を鮮明な画質に補正する（超解像設定）

BD-Video BDAV DVD-Video AVCREC VR AVCHD DLNA 映像

映像を精細感の高い画質に補正します。

1. 再生中に、サブメニューを押してサブメニューを表示する
2. ▲/▼で“超解像設定”を選び、決定を押す
3. ▲/▼で希望の設定を選び、決定を押す

超解像設定 オフ

“オフ”：超解像再生を無効にします。
“オン”：精細感が強調されます。

ご注意

- 接続しているテレビによっては、映像が白っぽく見えることがあります。その場合、“超解像設定”を“オフ”に設定してください。
- 再生している映像の解像度や本機に接続している機器のHDMI出力解像度によっては、効果が確認できないことがあります。

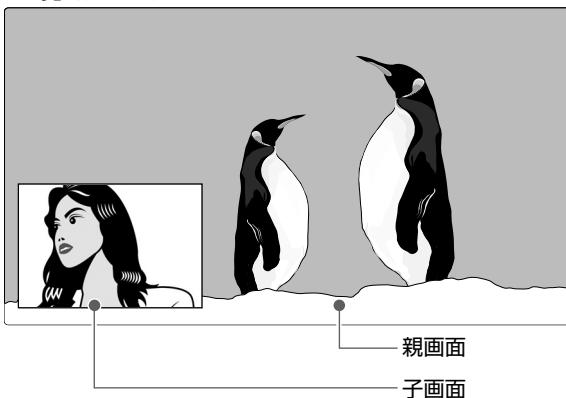
カメラアングル（見る角度）や映像を切り換える

BD-Video DVD-Video

再生中のタイトルに複数のカメラアングルや映像が記録されているときは、見る角度や映像を選ぶことができます。

1. 再生中に、サブメニューを押してサブメニューを表示する
2. ▲/▼で“アングル”を選び、決定を押す
3. ▲/▼で希望のカメラアングルや映像を選び、決定を押す
   - ▲/▼を押すたびに、カメラアングルや映像が切り換わります。

メモ

- カメラアングルが選べる場面では、画面に“ ”が表示されます。（表示されないようにすることもできます。（p.48））
- 音声／字幕／カメラアングルの内容はディスクによって異なりますので、ディスクソフトの説明書もご覧ください。

BD-Videoの子画面の切り換えをする

BD-Video

（ピクチャー・イン・ピクチャー対応のみ）
子画面（ピクチャー・イン・ピクチャー）対応のBD-Videoでは、再生する子画面の設定を選ぶことができます。

- 子画面の再生のしかたは、BD-Videoの取扱説明書をご覧ください。

親画面
子画面

1 再生中に、サブメニュー を押してサブメニューを表示する

2 ▲/▼で“セカンダリビデオ”を選び、決定 を押す

- 子画面の設定は、親画面／子画面の同時再生中のみできます。

3 ▲/▼で希望の設定を選び、決定 を押す

ご注意

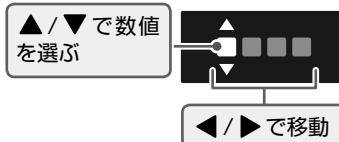
- セカンダリビデオ切換で子画面の映像を切り換えたときは、映像が切り換わるまでしばらく時間がかかります。

BD-Videoのバーチャル・パッケージを利用する

BD-Video

（バーチャル・パッケージ対応のみ）
バーチャル・パッケージに対応しているBD-Videoでは、USBメモリにデータをコピーして、いろいろな再生機能を楽しむことができます。

準備

- USBメモリを接続しておく（p.30）

- 他のデータが入ったUSBメモリや、他機でフォーマットされたUSBメモリを使うと、BD-Videoが正しく再生されないことがあります。その場合、“USBメモリ初期化”を行ってください。（p.49）
- コピーされたバーチャル・パッケージを再生中に本機からUSBメモリを抜くと、BD-Videoの再生が停止します。
- BD-Videoの再生中に、映像や音声が停止することがあります。
- USBメモリに記録されたバーチャル・パッケージの内容を消去するには、“（USB）BDデータ消去”を行ってください。（p.49）

パスワードの入力画面が表示されたときは

BDAV　AVCREC

ディスクに再生のためのパスワードが設定されているときは、パスワードの入力画面が表示されます。設定されたパスワードを入力してください。（本機では、パスワードの設定や変更はできません。）

1 ▲/▼/◀/▶でパスワードを入力する

- 入力した数字は、“＊”で表示されます。
- 入力を終えたら、決定 を押してください。

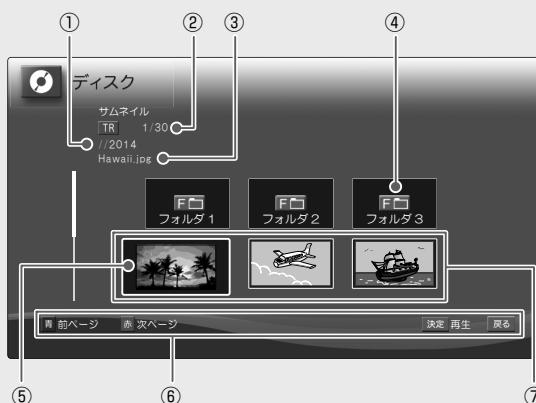
ご注意

- パスワードとは、再生を制限するためにディスクに設定されている4桁のパスワードです。

写真を再生する（スライドショー）

JPEG

ディスクやUSBメモリに記録された写真を本機で再生することができます。また、USBカードリーダー（市販品）を本機に接続すると、SDカードもお使いいただけます。
拡張子「.jpg（JPG）」や「.jpeg（JPEG）」が付いた、Exif 2.1規格準拠のJPEG圧縮データだけが再生できます。

1 ディスクを入れる、またはUSB機器を接続する

ディスクを再生するときは

- JPEGファイルのみ書き込まれたディスクの場合は自動でファイルの読み込みが始まり、ファイル一覧が表示されます。
- 種類の異なるファイルが書き込まれたディスクの場合は、コンテンツ選択画面が表示されます。◀／▶で“写真”を選び、決定を押してください。ファイル一覧画面が表示されます。

USB機器を再生するときは

① ホームを押してホームメニュー画面を表示する

② ▲／▼／◀／▶で“USB”を選び、決定を押す

- ファイル一覧画面が表示されます。
- 種類の異なるファイルが書き込まれたSDカードをUSBカードリーダーに接続している場合は、コンテンツ選択画面が表示されます。◀／▶で“写真”を選び、決定を押してください。

ファイル一覧画面の見かた

① フォルダの名前（現在の階層）
- 一番上の階層のときはディスクまたは機器の名前が表示されます。

② 選択中のファイル番号／総ファイル数

③ 選択中のファイルまたはフォルダの名前

④ フォルダアイコン

⑤ 選択中のファイルまたはフォルダ

⑥ 操作ガイド

⑦ サムネイル

フォルダ内を見たいときは

▲／▼／◀／▶で見たいフォルダを選び、決定を押す

- 階層が複数ある場合は、この操作を繰り返してください。
- 戻るを押すと上の階層に戻ります。

別のページを表示するときは

青（前ページ）または赤（次ページ）を押す

2 ▲／▼／◀／▶で見たい写真（ファイル）を選び、決定または ▶ を押して再生を始める

- 選んだ写真（ファイル）と、それ以降に記録されているファイルが連続再生されます。
- 再生中に画面表示を2回押すと、ファイル名を表示できます。
- 再生中に◀／▶を押すたびに、画像表示が90°ずつ回転します。（回転した画像情報は記憶されません。）

再生を停止するときは

■を押す

- 再生が停止し、ファイル一覧画面が表示されます。（レジュームポイントが記憶されます。）
- 最後のファイルまで再生されると、自動的に停止してファイル一覧画面に戻ります。
- その他の再生操作については、「いろいろな再生」（p.34）をご覧ください。

メモ

- 1ファイルあたりの再生時間（表示間隔）は10秒です。
- ファイル一覧画面には、JPEG形式のファイルだけが表示されます。
- JPEG再生中に再生できないファイルがあった場合は、“⃠”を表示して次のファイルにスキップします。
- 写真の縦横比によっては、上下左右に黒帯が表示されることがあります。

次ページへつづく

再生開始位置について

- 再生中に ■ を押すと、最後に再生したファイル（レジュームポイント）が記憶されます。
- レジュームポイントが記憶されているときにホームメニュー画面で“ディスク”または“USB”を選んだときは、レジュームポイントが記憶されているファイルを選択した状態でファイル一覧が表示されます。
- 最初から再生したいときは、ファイル一覧画面でもう一度 ■ を押してレジュームポイントを解除してください。

メモ

- ディスクトレイを開けたときは、ディスクのレジュームポイントが解除されます。
- 本機からUSB機器を取り外したときや本機の電源を切ったときは、USB機器のレジュームポイントが解除されます。

本機で再生できるJPEGファイルについて

■ 画素数

サブサンプリング（4：4：4 の場合）	32 × 32 ～ 4096 × 4096
サブサンプリング（4：2：2 または 4：2：0 の場合）	32 × 32 ～ 5120 × 5120

- ファイルサイズは12MBまでです。
- JPEGファイルをディスクに書き込む場合はUDF、ISO9660またはJOLIETフォーマットで書き込んでください。
- 一覧のフォルダ名が長いときは、末尾の文字が表示されない場合があります。

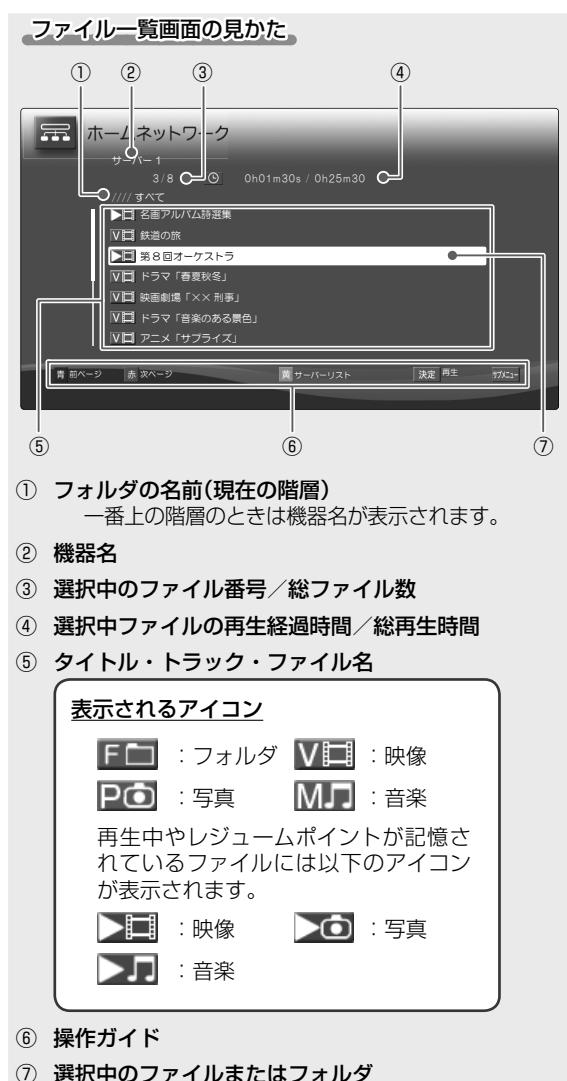
ご注意

- JPEG形式以外のファイルは再生できません。
- プログレッシブ形式のJPEGファイルは再生できません。
- Motion JPEGファイルには対応していません。
- 記録状態などによっては、一覧に表示されたファイルでも再生できないことがあります。

最大認識可能数について

本機で認識できる最大ファイル数／最大フォルダ数／最大階層数は以下になります。

	BD ／ DVD ／ USB	CD
フォルダ数	999	255
ファイル数	9999	999
階層数	9	9

ホームネットワークを使って再生する

DLNAを使って、ホームネットワーク上の機器（DLNAサーバー）の映像などを本機で再生することができます。
（レコーダーなどで記録したタイトルも再生することができます。）
- 詳しくは、DLNA対応機器の取扱説明書をご覧ください。

準備

- 本機をネットワークとつなぐ（p.15）
- ネットワークの接続設定をしておく（p.21）

1 ホーム を押してホームメニュー画面を表示する

2 ▲/▼/◀/▶ で“ホームネットワーク”を選び、決定 を押す

- 接続されている機器の一覧（サーバーリスト）が表示されます。
（最大30件まで）
- 黄 を押すと一覧が更新されます。

3 ▲/▼で再生したいファイルが保存されている機器を選び、決定 を押す

4 ▲/▼で再生したいファイルが保存されているフォルダを選び、決定 を押す

- 階層が複数ある場合は、この操作を繰り返してください。
- 戻る を押すと上の階層に戻ります。
- 黄 を押すか、サブメニュー を押してサブメニューを表示し“サーバーリスト”を選ぶと、サーバーリストに戻ります。

5 ▲/▼で再生したいファイルを選び、決定 または ▶ を押す

ファイル一覧画面の見かた

① フォルダの名前（現在の階層）
一番上の階層のときは機器名が表示されます。
② 機器名
③ 選択中のファイル番号／総ファイル数
④ 選択中ファイルの再生経過時間／総再生時間
⑤ タイトル・トラック・ファイル名

表示されるアイコン

F：フォルダ　V：映像
P：写真　M：音楽

再生中やレジュームポイントが記憶されているファイルには以下のアイコンが表示されます。

▶：映像　▶：写真
▶：音楽

⑥ 操作ガイド
⑦ 選択中のファイルまたはフォルダ

次ページへつづく

■ 音楽を再生しているときは

① 再生中のファイル番号／総ファイル数

② 再生経過時間／総再生時間

③ 動作状態

● その他の再生操作や、再生中の設定の切り換えについては、「いろいろな再生」(p.34)、「再生中の各種設定切り換え」(p.37)をご覧ください。

再生を停止するときは

■ を押す

● 映像や写真の再生では、停止後にファイル一覧画面が表示されます。

番組説明を表示するときは

DLNA 映像

ファイル一覧画面で表示するには

① ▲/▼で番組説明を表示したいタイトルを選び、サブメニューを押してサブメニューを表示する

② ▲/▼で"番組説明表示"を選び、決定を押す

再生中に表示するには

① 再生中にサブメニューを押してサブメニューを表示する

② ▲/▼で"番組説明表示"を選び、決定を押す

番組説明を消したいときは

戻るを押す

再生開始位置について

DLNA 映像

再生中に ■ を押すと、ファイルごとに再生停止位置(レジュームポイント)が記憶されます。

● 次回、同じタイトルを選び、▶ または 決定 を押すと、続きから再生します。

● ファイル一覧画面で再生したいタイトルを選び、サブメニューを押すと、"最初から再生"または"続きから再生"を選ぶことができます。

メモ

● ファイルの終わりまで再生したときは、レジュームポイントは記憶されません。

● レジュームポイントは最大20個まで記憶されます。

● 次のような場合、記憶したレジュームポイントが解除されます。
 - ファイルの終わりまで再生したとき
 - レジュームポイントが上限の20個を超えたとき(古いレジュームポイントから順に削除されます。)
 - 異なるサーバーリストを選択したとき
 - ホームメニュー画面を表示したとき
 - 本機の電源を切ったとき

ファイル一覧画面で別のページを表示するときは

青(前ページ)または 赤(次ページ)を押す

■ 認識できるフォーマット

	映像形式	音声形式
映像	MPEG2	ドルビーデジタル
		AAC
		MPEG1 Layer2
		LPCM
	H.264	AAC
		MPEG1 Layer2
	MPEG1	—
音楽	AAC PCM LPCM	
写真	JPEG	

ご注意

● ファイル一覧に表示されているファイルでも、再生できないことがあります。

● サーバーと本機は、同じネットワークに接続してください。

● サーバーによって、再生時に使える機能が異なります。

● 映像の画質などは、ネットワークの環境によって異なります。

● 再生中にファイルやフォルダを切り換えるときに、時間がかかることがあります。

● ハイビジョン画質放送と標準画質放送(マルチチャンネル放送など)が混在したタイトルを再生中、早送りや早戻し、サーチ機能を使うと停止することがあります。

再生についての補足説明

■ 再生全般

- ブルーレイディスク／ DVDの2層ディスクの再生中は、1層目と2層目が切り換わるときに映像や音声が一瞬途切れることがあります。
- 再生開始時や再生停止時に、映像や音声が出るまで時間がかかることがあります。
- タイトルの変わり目で画面が一瞬静止画になったりブロックノイズが見えたりすることがあります。
- ディスクの再生が終わると、最後の場面で再生一時停止となったりディスクのメニューが表示されたりすることがあります。この状態が長く続くと、テレビ画面が焼き付けを起こすことがありますのでご注意ください。
- ディスクによっては、つづき再生、再生速度の切り換え、頭出し、言語やカメラアングルの切り換え、リピート再生などの操作が、本機ではできないことがあります。

■ タイトル/ファイル一覧画面

- リピート再生中にタイトル/ファイル一覧画面を表示すると、リピート再生が解除されます。

■ つづき再生（レジュームポイント設定状態）

- つづき再生が始まる位置は、レジュームポイントによって多少ずれることがあります。

■ 音声／字幕／カメラアングルの切り換え

- ディスクソフトによっては、ディスクのメニューを使って音声言語や字幕言語を切り換えるものがあります。
- 音声（言語）を切り換えると、一瞬映像が止まったり黒画面になったりすることがあります。
- 字幕設定を変更したときは、切り換わるまで多少時間がかかることがあります。
- 早送り／早戻し再生中の字幕表示はできません。
- カメラアングルを変更したときは、切り換わるまでに多少時間がかかることがあります。
- ディスクトレイを開けたときは、カメラアングルの設定が“1”に戻ります。

■ 音声出力について

- 再生するメディアや本機に接続している機器によって、音声出力が異なります。詳しくは、以下の表をご覧ください。

メディア	音声記録方式	音声出力設定	
		ビットストリーム	LPCM
BD-Video	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	マルチLPCM
	ドルビーデジタルプラス	ドルビーデジタルプラス（ドルビーデジタル※1）	マルチLPCM
	ドルビー TrueHD	ドルビー TrueHD（ドルビーデジタル※1）	マルチLPCM
	DTS®	DTS®	2ch LPCM
	DTS-HD®	DTS-HD®（DTS® ※1）	2ch LPCM
	LPCM	マルチLPCM	マルチLPCM
BDAV	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	マルチLPCM
	AAC	AAC	2ch LPCM
	LPCM	マルチLPCM	マルチLPCM
DVD-Video	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	マルチLPCM
	DTS®	DTS®	2ch LPCM
	LPCM	2ch LPCM	2ch LPCM
DVD-VR	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	マルチLPCM
	LPCM	2ch LPCM	2ch LPCM
AVCREC	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	マルチLPCM
	AAC※2	AAC	2ch LPCM
	LPCM	2ch LPCM	マルチLPCM

メディア	音声記録方式	音声出力設定	
		ビットストリーム	LPCM
AVCHD	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	マルチLPCM
	LPCM	マルチLPCM	マルチLPCM
音楽用CD	LPCM	2ch LPCM	2ch LPCM
DTS-CD	DTS®	DTS®	2ch LPCM
ホームネットワーク映像	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	マルチLPCM
	AAC	AAC	2ch LPCM
	MPEG1 Layer2	2ch LPCM	マルチLPCM
	LPCM	2ch LPCM	2ch LPCM
ホームネットワーク音楽	AAC	AAC※3	2ch LPCM
	PCM	2ch LPCM	2ch LPCM
	LPCM	2ch LPCM	2ch LPCM

※1　“BD-HD音声設定”を“複合音声”に設定して、インタラクティブ音声やセカンダリ音声を含むBD-Videoを再生したとき。
※2　デジタル放送で使用されるAAC音声の再生は可能ですが、パソコンなどで記録されたAAC音声の再生はできません。
※3　ヘッダ情報にAACの情報がある場合はAACで出力します。AACヘッダ情報が無い場合はPCMで出力します。

ご注意

- 接続している機器がHDMIビットストリーム、AACに対応していない場合“音声出力設定”を“ビットストリーム”に設定していても、機器の性能に応じてマルチLPCM、またはダウンミックス2ch LPCMで出力されます。
- 再生するBD-Videoにセカンダリ音声やインタラクティブオーディオがない場合は、“BD-HD音声設定”を“複合音声”に設定していても、出力音声は“HD音声”と同様になります。
- HDMI端子からの音声信号(サンプリング周波数、チャンネル数、ビット長など)は、接続する機器により制限されることがあります。
- プロジェクターなどのHDMI対応モニターによっては、音声信号入力に対応していない場合があります。そのような機器と本機を接続した場合は、HDMI出力端子から音声信号は出力されません。

いろいろな設定を変える（設定メニュー）

"設定"メニューを使う

1 ホーム を押して、ホームメニュー画面を表示する

2 ▲/▼/◀/▶で"設定"を選び、決定 を押す

3 ▲/▼で希望の項目または設定を選び、決定 を押す

各設定項目については、以下の「"設定"メニューの項目と設定内容」（p.46 ～ 49）をご覧ください。
この操作を繰り返し、希望の設定に変更します。

● 戻る を押すと、左側の設定項目に戻ります。

希望の設定に変更するときに確認メッセージが出る場合は

① ▲/▼/◀/▶で"はい"を選び、決定 を押してください。

ご注意

● 再生中にホームメニュー画面を表示すると、再生が自動的に停止します。

"設定"メニューの項目と設定内容

設定のしかたについては、上記「"設定"メニューを使う」（本ページ）をご覧ください。
（ はお買い上げ時の設定です。）

項目		設定内容	説明
映像設定	テレビ画面選択 •「アスペクト比（画面比）について」（p.54）もご覧ください。	4:3レターボックス	4:3標準テレビで16:9ワイド映像を見るときに、左右方向を画面いっぱいに映し、上下方向に黒い帯を表示します。
		4:3パンスキャン	4:3標準テレビで16:9ワイド映像を見るときに、上下方向を画面いっぱいに映し、左右方向を一部カットします。パンスキャン指定のないDVDディスクソフトはレターボックスで表示されます。
		16:9ワイド	16:9ワイドテレビで見るときに選びます。16:9ワイド映像を画面いっぱいに映します。
		16:9シュリンク	16:9ワイドテレビで、4:3映像を見るときに、画面の上下幅に収まるまで、縦横比を維持しつつ4:3映像を縮小して表示します。
	スチルモード	自動	表示する静止画の情報に応じて、"フィールド"または"フレーム"のどちらかで表示されます。
		フィールド	"自動"に設定しても画像のブレが発生するときに設定します。"フィールド"を選択すると、情報量が少ないため、画像は少し荒くなります。
		フレーム	動きのない画像を特に高解像度で一時停止させたいときに設定します。"フレーム"を選択すると画質は良くなりますが、2枚のフィールドを交互に出力させるため画像にブレが生じることがあります。
音声設定	Dolby D レンジ（p.50）	自動	DolbyTrueHDの再生中に、本機がディスクのDolby D レンジ情報を認識し、自動でDolby D レンジ設定を"入"または"切"に設定します。DolbyTrueHD以外を再生した場合では"切"と同じ動作をします。
		入	記録された音声のダイナミックレンジ（強弱の幅）を調整します。
		切	記録されたオリジナル音源で出力します。
	BD-HD音声設定	複合音声	インタラクティブオーディオやプライマリ音声、セカンダリ音声などをすべて出力します。
		HD音声	プライマリ音声のみを高音質で出力します。

次ページへつづく

項目		設定内容	説明
HDMI接続設定	解像度設定(p.50)	自動	接続したHDMI機器によって、HDMI映像解像度を自動で設定します。
		480p	480プログレッシブで出力します。
		720p	720プログレッシブで出力します。
		1080i	1080インターレースで出力します。
		1080p	1080プログレッシブで出力します。
		1080p/24	1080プログレッシブ24フレームで出力します。
	ディープカラー	自動	接続したHDMI機器がディープカラーに対応している場合、自動で映像信号をディープカラーで出力します。
		切	映像信号をディープカラーで出力しません。
	プログレッシブモード	自動	映画などの1秒間に24フレームで撮影されたフィルム素材を検知し、自動的に最適な状態で出力します。
		ビデオ	ドラマやアニメなどのビデオ素材を再生するときの設定です。 “自動”設定でブレが生じるときは、この設定にしてください。
	音声出力設定	ビットストリーム	接続している機器が以下に対応している場合、各音声をビットストリームで出力します。 • ドルビーデジタル • ドルビーデジタルプラス • ドルビー TureHD • DTS • DTS-HD • AAC
		LPCM	上記音声をLPCMで出力します。
	CECリンク制御(p.20)	入	本機のCECリンク制御機能を使う設定です。 ● 本機とHDMI CEC対応テレビをつなぐと、本機が対応しているCECリンク連動機能を利用できます。(HDMI CEC対応テレビの取扱説明書もご覧ください。)
		切	
再生設定	音声言語(p.50)	オリジナル	再生時の音声言語を設定します。 “その他の言語”を選ぶと、4桁の言語コード入力画面が表示されるので、言語コード一覧表(p.53)を参考に、言語コードを入力してください。
		日本語	
		英語	
		その他の言語	
	字幕言語(p.50)	切	再生時の字幕言語を設定します。 “その他の言語”を選ぶと、4桁の言語コード入力画面が表示されるので、言語コード一覧表(p.53)を参考に、言語コードを入力してください。
		日本語	
		英語	
		その他の言語	
	ディスクメニュー言語(p.50)	日本語	ディスクのメニューで表示される言語を設定します。 “その他の言語”を選ぶと、4桁の言語コード入力画面が表示されるので、言語コード一覧表(p.53)を参考に、言語コードを入力してください。
		英語	
		その他の言語	
	BD視聴制限レベル • ご利用いただくにはパスワードの入力が必要です。(p.51)	無制限	制限なく、すべてのディスクが視聴できます。
		視聴可能年齢設定	年齢入力画面が表示されるので、制限したい年齢を入力してください。入力した年齢を超える制限が設定されているタイトルは視聴することができなくなります。
	DVD視聴制限レベル • ご利用いただくにはパスワードの入力が必要です。(p.51)	無制限	制限なく、全てのディスクが視聴できます。
		レベル 8	年齢に関係なく視聴できます。
		レベル 7	18歳未満の方は視聴できません。
		レベル 6	18歳未満の方が視聴するには保護者の指導が必要です。
		レベル 5	保護者同伴での視聴を推奨します。
		レベル 4	13歳未満の方の視聴には不適切な表現が含まれています。
		レベル 3	保護者の方の判断による視聴を推奨します。
		レベル 2	一般的に視聴できる内容です。
		レベル 1	お子様が視聴されても問題のない内容です。

いろいろな設定を変える(設定メニュー)・つづき

項目		設定内容	説明
再生設定	可変スキップ (p.34)	5 秒	可変スキップ を押したときに、スキップする時間を設定します。
		10 秒	
		30 秒	
		1 分	
		5 分	
	可変リプレイ (p.34)	5 秒	可変リプレイ を押したときに、戻る時間を設定します。
		10 秒	
		30 秒	
		1 分	
		5 分	
	アングル表示 (p.38)	入	“入”に設定しておくと、再生中にカメラアングルが切り換え可能な場面で、画面に“ ”が表示されます。
		切	
ネットワーク設定	ネットワーク接続設定 (p.21)	設定開始	ネットワーク設定を行い、ネットワーク接続を有効にします。
		接続テスト	ネットワークが正しく接続できているか確認します。ネットワークの設定後やネットワークの設定を変更後は、接続テストを行ってください。
	BD-Live 接続設定 • ご利用いただくにはパスワードの入力が必要です。(p.51)	有効	BD-Live™コンテンツからのインターネットアクセスを許可します。
		有効 (制限つき)	証明書をもつBD-Live™コンテンツからのインターネットアクセスのみ許可します。
		無効	BD-Live™コンテンツからのインターネットアクセスを禁止します。
	ネットワークステータス表示		現在のネットワークの設定を表示します。
その他設定	未使用時自動電源オフ	入	電源「入」状態で本機を使わないとき、節電のために約25分後に自動的に電源を切る設定です。
		切	
	テレビ画面保護	入	設定が“入”のとき、停止中に操作をしない状態が約5分続くと、テレビ画面保護機能が働きます。
		切	
	高速起動	入	本機を高速で起動する設定です。(待機時の消費電力は増加します。)
		切	
	パスワード変更		BD / DVD-Videoの視聴年齢制限、BDLive接続設定のパスワードを変更します。
	ソフトウェア更新 (p.23)	バージョン情報	現在の本体ソフトウェア(ファームウェア)のバージョンを表示します。
		ネットワークによる更新	インターネット回線を利用して、本機のソフトウェアを更新します。
		ディスクによる更新	ディスクを使って、本機のソフトウェアを更新します。
		USBメモリによる更新	USBメモリを使って、本機のソフトウェアを更新します。
	ソフトウェア更新確認 (p.23)	入	本体ソフトウェア(ファームウェア)の更新を確認する機能です。“入”に設定しておくと、定期的にサーバーをチェックし、新しい本体ソフトウェア(ファームウェア)が公開されている場合は画面にメッセージを表示します。
		切	

次ページへつづく

項目		設定内容	説明
その他設定	初期化	設定項目初期化	本機の各種設定を初期化します。ただし、“視聴制限設定”、“ネットワーク設定”は初期化されません。
		USB メモリ初期化	USBを初期化します。USBに記録された全ての情報を消去します。
		(本機) BDデータ消去	本機に保存されたBD-Videoデータのアプリケーションデータ(BD-Videoのゲームスコア等)を消去します。
		(USB) BDデータ消去	USBメモリに保存されたBD-Videoデータのバーチャルパッケージ(ダウンロードしたBD-Videoの特典映像・音声・字幕等)を消去します。
		ネットワーク設定初期化	ネットワーク設定を初期化します。ただし、“BD-Live接続設定”は初期化されません。
		個人情報初期化	本機の設定を工場出荷状態に戻し、電源を切ります。 ● 本機を譲渡または廃棄される場合には、“個人情報初期化”を行うことをおすすめします。
	ライセンス情報		本機で使用しているソフトウェアのライセンス情報を表示します。

いろいろな設定を変える(設定メニュー)・つづき

"本体設定"メニューについての補足説明

■ "映像設定"

"TV画面選択"

- 4:3 | 16:9 LB | 16:9 PS のように、DVD-Video側で画面サイズが指定されているときは、本機で画面の種類を選んでも、違う種類で表示されることがあります。
- 正しい画面サイズ(画角、画面の縦横比)でハイビジョン映像を見るには、画面サイズを調整できるテレビでテレビ側で画角を調整してください。

■ "HDMI接続設定"

"HDMI解像度設定"

- "480p"以外に設定している場合、本機の映像出力端子からは"16：9"で信号が出力されます。

■ "音声設定"

"Dolby Dレンジ"

- この機能の効果は、タイトルによって異なります。

■ "再生設定"

"音声言語"／"字幕言語"／"ディスクメニュー言語"

- 言語設定はBD／DVD-Video側の設定が優先され、本機の設定とは異なる言語になることがあります。
- BD／DVD-Videoによっては、ディスクのメニューを使って音声言語や字幕言語を切り換えるものがあります。この場合の操作のしかたは、ディスクソフトの説明書をご覧ください。
- BD／DVD-Videoによっては、言語の設定を切り換えられないことがあります。
- 再生中の音声／字幕言語の切り換えかたは(p.37)をご覧ください。

■ "その他設定"

"初期化"

- "USBメモリ初期化"や"(USB)BDデータ消去"を実行中に、USBメモリを抜かないでください。USBメモリのデータが破損するおそれがあります。
- 本機にディスクが入っているときは、"個人情報初期化"はできません。また、本機にブルーレイディスクが入っているときは、"USBメモリ初期化"と"(USB)BDデータ消去"もできません。
- 本機に記憶されたお客様の個人情報(登録情報など)の一部、またはすべての情報が変化・消失した場合の損害や不利益について、アフターサービス時も含めて当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 以下の設定を初期化するには、パスワードをリセットしてください。(p.52)
  - BD視聴制限レベル
  - DVD視聴制限レベル
  - BD-Live接続設定

BD ／ DVD-Videoの視聴を制限する

BD-Video DVD-Video

1 ホーム を押し、"設定" ➡ "再生設定" ➡ "BD視聴制限レベル"または"DVD視聴制限レベル"の順に選び、決定 を押す

(くわしい操作方法は(p.46)をご覧ください。)

- パスワード入力画面が表示されます。

2 パスワードを入力する

- パスワードの入力方法については、「パスワードを入力する」(本ページ)をご覧ください。

3 ▲/▼で変更したい項目を選び、設定内容を変更する

ブルーレイディスクの視聴制限レベル

"無制限" ………………… 制限なし

"視聴可能年齢設定" … ▲/▼/◀/▶で年齢入力

DVDの視聴制限レベル

"無制限" …… 制限なし

"レベル8" … 弱(ほとんどのDVDが再生可能)

≀

"レベル1" … 強(子供用のDVDだけが再生可能)

4 決定 を押し、設定を完了する

BD-Live™の再生を制限する

BD-Video

1 ホーム を押し、"設定" ➡ "ネットワーク設定" ➡ "BD-Live接続設定"を選び、決定 を押す

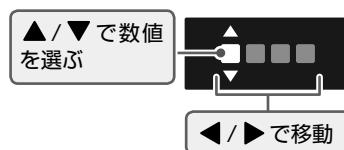
(くわしい操作方法は(p.46)をご覧ください。)

2 パスワードを入力する

- パスワードの入力方法については、「パスワードを入力する」(本ページ)をご覧ください。

3 ▲/▼で"無効"を選び、決定 を押す

メモ

- "有効(制限つき)"を選ぶと、BD-Live™コンテンツ制作者の証明書があるディスクのみ再生することができます。

パスワードを入力する

以下の設定をご利用いただくにはパスワードの入力が必要になります。

- BD視聴制限レベル
- DVD視聴制限レベル
- BD-Live接続設定

パスワードは上記の設定で共通です。(別々にパスワードを設定することはできません。)

1 パスワード入力画面が表示されたら、▲/▼/◀/▶でパスワード(4桁)を入力する

- 入力した数字は、"＊"で表示されます。
- "0"～"9"までの数字が選択できます。
- パスワードが未登録の場合は、2回入力が必要です。ここで入力した番号がパスワードとして登録されます。

入力を間違えたときは

◀で戻り、入力をやり直してください。

パスワードを忘れてしまったときは

パスワードをリセットしてから新しいパスワードを設定しなおしてください。「パスワードをリセットする」(p.52)

2 決定 を押して入力を確定する

いろいろな設定を変える(設定メニュー)・つづき

パスワードを変更する

1 ホーム を押し、"設定" ➡ "その他設定" ➡ "パスワード変更"の順に選び、決定 を押す

(くわしい操作方法は(p.46)をご覧ください。)

- パスワード入力画面が表示されます。

2 現在のパスワードを入力する

- パスワードの入力方法については、「パスワードを入力する」(p.51)をご覧ください。

3 ▲/▼/◀/▶ で新しいパスワードを入力する

4 確認用の再入力画面が表示されるので、もう一度入力し、決定 を押す

パスワードをリセットする

パスワードを忘れてしまったときや以下の制限を初期化したいときは、パスワードをリセットしてください。

- BD視聴制限レベル
- DVD視聴制限レベル
- BD-Live接続設定

1 パスワード入力画面で4737を入力する

ご注意

- "パスワード変更"で４７３７を入力してもパスワードはリセットされません。
- このパスワードは、視聴を制限される方にわからないようにご注意ください。

■ 言語コード一覧

言語名（順不同）	言語コード
アファル語	4747
アブバジア語	4748
アフリカーンス語	4752
アムハラ語	4759
アラビア語	4764
アッサム語	4765
アイマラ語	4771
アゼルバイジャン語	4772
バジキール語	4847
ベラルーシ語	4851
ブルガリア語※	4853
ビハーリー語	4854
ビスラマ語	4855
ベンガル語、バングラ語	4860
チベット語	4861
ブルトン語	4864
カタロニア語	4947
コルシカ語	4961
チェコ語※	4965
ウェールズ語	4971
デンマーク語※	5047
ドイツ語※	5051
ブータン語	5072
ギリシャ語※	5158
英語※	5160
エスペラント語	5161
スペイン語※	5165
エストニア語	5166
バスク語	5167
ペルシャ語	5247
フィンランド語※	5255
フィジー語	5256
フェロー語	5261
フランス語※	5264
フリジア語	5271
アイルランド語※	5347
スコットランドゲール語	5350
ガルシア語	5358
グアラニ語	5360
グジャラート語	5367
ハウサ語	5447
ヘブライ語	5451
ヒンディ語	5455
クロアチア語	5464
ハンガリー語※	5467
アルメニア語	5471
国際語	5547
インドネシア語	5550
国際語	5551
イヌピック語	5557
アイスランド語※	5565
イタリア語※	5566
日本語※	5647
ジャワ語	5668
グルジア語	5747
カザフ語	5757
グリーンランド語	5758
カンボジア語	5759
カンナダ語	5760
韓国語※	5761
カシミール語	5765
クルド語	5767
キルギス語	5771
ラテン語	5847
リンガラ語	5860
ラオス語	5861
リトアニア語	5866
ラトビア語、レット語	5868
マダガスカル語	5953
マオリ語	5955
マケドニア語	5957
マラヤーラム語	5958
モンゴル語	5960
モルダビア語	5961
マラータ語	5964
マレー語	5965
マルタ語	5966
ミャンマー語	5971
ナウル語	6047
ネパール語	6051
オランダ語※	6058
ノルウェー語※	6061
プロバンス語	6149
アファン語、オロモ語	6159
オリヤー語	6164
パンジャブ語	6247
ポーランド語※	6258
パシュトー語	6265
ポルトガル語※	6266
ケチュア語	6367
ラエティ=ロマン語	6459
キルンディ語	6460
ルーマニア語※	6461
ロシア語※	6467
キニャルワンダ語	6469
サンスクリット語	6547
シンド語	6550
サンゴ語	6553
セルビアクロアチア語	6554
シンハラ語	6555
スロバキア語※	6557
スロベニア語	6558
サモア語	6559
ショナ語	6560
ソマリ語	6561
アルバニア語	6563
セルビア語	6564
シスワティ語	6565
セストゥ語	6566
スンダ語	6567
スウェーデン語※	6568
スワヒリ語	6569
タミール語	6647
テルグ語	6651
タジク語	6653
タイ語	6654
ティグリニャ語	6655
トゥルクメン語	6657
タガログ語	6658
セツワナ語	6660
トンガ語	6661
トルコ語※	6664
ツォンガ語	6665
タタール語	6666
トウィ語	6669
ウクライナ語	6757
ウルドゥ語	6764
ウズベク語	6772
ベトナム語	6855
ボラピュク語	6861
ウォロフ語	6961
コーサ語	7054
イディッシュ語	7155
ヨルバ語	7161
中国語※	7254
ズール語	7267

7 便利な機能

メモ

● 音声切換 または 字幕切換 を押したとき、※の付いている言語はそれぞれの言語名が表示され、それ以外の言語は“---”で表示されます。

参考資料

アスペクト比(画面比)について

アスペクト比とは、映像を構成する画面(映像)サイズの幅と高さの比で、4:3と16：9（ワイド)があります。

接続するテレビ	“TV画面選択”	画面の見えかた（上：4：3映像の場合、下：ワイド映像の場合）
16：9のテレビ	“4：3レターボックス”	画面全体に表示します。
		上下方向に黒い帯を表示します。
	“4：3パンスキャン”	画面全体に表示します。
		左右を一部カットして表示します。
	“16：9ワイド”	画面全体に表示します。
		入力信号通りのアスペクト比で表示します。
	“16：9シュリンク”	4：3を維持して、縮小表示します。
		入力信号通りのアスペクト比で表示します。
4：3のテレビ	“4：3レターボックス”	入力信号通りのアスペクト比で表示します。
		上下方向に黒い帯を表示します。
	“4：3パンスキャン”	入力信号通りのアスペクト比で表示します。
		左右を一部カットして表示します。
	“16：9ワイド”	入力信号通りのアスペクト比で表示します。
		16：9を4：3に縮小表示します。
	“16：9シュリンク”	縮小表示します。
		16：9を4：3に縮小表示します。

メモ

- 720p/1080i/1080p/1080p24で出力している場合は、“TV画面選択”設定にかかわらず、16：9シュリンク設定のみ有効です。
- 市販のディスクソフト再生時は、設定に関わらず、4：3パンスキャンでも、4：3レターボックスとして表示されることがあります。
- 再生するコンテンツによっては、この表のとおりに映像が表示されない場合があります。

本機で使われるソフトウェアのライセンス情報

本内容はライセンス情報のため、操作には関係ありません。

本機は、米国「Free Software Foundation, Inc.が定めたGNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2及びGNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1（以下「ソフトウェア使用許諾契約書」といいます。）に基づきフリーソフトウェアとして使用許諾されるソフトウェアモジュールを使用しています。

対象となるソフトウェアモジュールのお問い合わせに関しては、以下のホームページをご覧いただくようお願いいたします。

ホームページアドレス

http://support.maxell.co.jp/consumer_contact/detail.php?goods=ivrecorder

当該ソフトウェアモジュールの使用条件等の詳細につきましては、ホームメニュー画面の“設定”→“その他設定”→“ライセンス情報”に記載する各ソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。（日立マクセル以外の第三者による規定であるため、原文を記載します。）

当該ソフトウェアモジュールについては、日立マクセル以外に、別途著作権者その他の権利を有するものがおり、かつ、無償での使用許諾ですので、現状のままでの提供であり、また、適用法令の範囲内で一切保証（明示するもの、しないものを問いません。）をしないものとします。また、当社は、当該ソフトウェアモジュール及びその使用に関して生じたいかなる損害（データの消失、正確さの喪失、他のプログラムとのインターフェースの不適合化等も含まれます。）についても、適用法令の範囲内で一切責任を負わず、費用負担をいたしません。

著作権について

- 保護されたコンテンツを無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは、法律により禁止されています。
- 本製品は、AVC Patent Portfolio LicenseおよびVC-1Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、お客さまが個人的かつ非営利目的において以下に記載する行為にかかわる個人使用を除いてはライセンスされておりません。
  - AVC規格に準拠する動画を記録する場合
  - 個人的かつ非営利活動に従事する消費者によって記録されたAVC規格に準拠する動画およびVC-1規格に準拠する動画を再生する場合
  - ライセンスを受けた提供者から入手されたAVC規格に準拠する動画およびVC-1規格に準拠する動画を再生する場合

  詳細については米国法人MPEG LA, LLC（http://www.mpegla.com）をご参照ください。
- Cinavia™

  Cinaviaの通告この製品はCinavia技術を利用して、商用制作された映画や動画およびそのサウンドトラックのうちいくつかの無許可コピーの利用を制限しています。無許可コピーの無断利用が検知されると、メッセージが表示され再生あるいはコピーが中断されます。

  Cinavia技術に関する詳細情報は、http://www.cinavia.comのCinaviaオンライン お客様情報センターで提供されています。

  Cinaviaについての追加情報を郵送でお求めの場合、Cinavia Consumer Information Center, P.O. Box 86851, San Diego, CA, 92138, USAまではがきを郵送してください。

  この製品はVerance Corporation（ベランス・コーポレーション）のライセンス下にある占有技術を含んでおり、その技術の一部の特徴は米国特許第7,369,677号など、取得済みあるいは申請中の米国および全世界の特許や、著作権および企業秘密保護により保護されています。

  CinaviaはVerance Corporationの商標です。

  Copyright 2004-2015 Verance Corporation.すべての権利はVeranceが保有しています。リバース・エンジニアリングあるいは逆アセンブルは禁じられています。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- For DTS patents, see http://patents.dts.com. Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS, the Symbol, & DTS and the Symbol together are registered trademarks, and DTS 2.0+Digital Out is a trademark of DTS, Inc. © DTS, Inc. All Rights Reserved.
- Blu-ray Disc™（ブルーレイディスク）、Blu-ray（ブルーレイ）、BD-Live™、BONUSVIEW™、AVCREC™及び関連ロゴはブルーレイディスクアソシエーションの商標です。
- “DVD Logo”はDVDフォーマットロゴライセンシング株式会社の商標です。
- HDMIとHDMI High-Definition Multimedia Interface用語およびHDMIロゴは、米国およびその他国々において、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- “AVCHD”および“AVCHD”ロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
- “x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- DLNA®, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED® are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.
- その他に記載されている会社名、ブランド名、ロゴ、製品名、機能名などは、それぞれの会社の商標または登録商標です。

仕様

モデル名	BD-P100
一般	
電源	AC 100 V　50 ／ 60 Hz
消費電力	10 W
許容動作温度	5 ～ 40 ℃
許容湿度	最大80％（結露なきこと）
外形寸法	280（幅）× 39（高さ）× 198（奥行）mm（突起部含む）
質量	1.05 kg
端子部	
HDMI出力	HDMI端子　19 ピン　Type A　×1
USB端子	USB2.0準拠　Type A　DC5 V　最大 500 mA　×1
LAN（10 ／ 100）	10 BASE-T ／ 100 BASE-TX　×1

仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

■ 補修用性能部品の保有期間について

- ブルーレイディスクプレーヤーの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後７年です。
（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

困ったときは

あれ？おかしいな？と思ったときは、修理を依頼される前に以下の手順でお調べください。

- 本機と接続している機器の取扱説明書もよくお読みください。

おかしいな？と思ったときの調べかた

1 まずは、次ページからの「こんなときは（症状） － ここをお調べください（原因と対応のしかた）」をご覧になり、現在の症状と対応のしかたをお調べください。

それでも直らないときは

2 機器内部に何らかの異常が発生している可能性があります。このような場合、強制的に電源を切る仕組みになっています。

ディスクやUSBメモリが取り出せる場合は、先に取り出しておいてください。

① 本機の電源を切ることができる場合は、本体前面の［電源］ボタンを押して本機の電源を切る
（［電源］ボタンを10秒以上長押しすると、強制的に電源を切ります。）

② 本機の電源プラグを電源コンセントから抜いて、数秒間待つ

③ 本機の電源プラグを再度電源コンセントに差し込む（本機が通電状態になります。）

④ 電源を入れて、動作を確認する

それでも、まだ不具合があるときは

3 本機の使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、当社お客様ご相談センターまたはお買い上げの販売店にご相談ください。

次ページへつづく

困ったときは・つづき

■ 電源

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
電源が入らない。	● 電源コードのプラグが電源コンセントから抜けていませんか?	16
	● リモコンの乾電池が消耗していませんか?	17
	● 機器内部に何らかの異常が発生している可能性があります。このような場合、強制的に電源を切る仕組みになっています。 → 「おかしいな?と思ったときの調べかた」(p.57)の手順 2 以降を行ってください。	57
電源を入れると、“かんたん設定”画面が表示される。	● 接続が終わって初めて電源を入れたときや、“個人情報初期化”を行ったときは、“かんたん設定”画面が表示されます。	19
テレビの電源を切ると、本機の電源も自動的に切れる。 本機の電源を入れると、テレビの電源も自動的に入る。	● CECリンク機能対応テレビと組み合わせて、本機のCECリンク制御を設定しているときは、テレビの電源と本機の電源が連動して自動的に入/切します。(お使いのテレビによっては、自動的に電源が「入」にならないものもあります。)	20
勝手に電源が切れる。	● “未使用時自動電源オフ”機能が設定されていませんか?	48
	● 機器内部に何らかの異常が発生している可能性があります。このような場合、強制的に電源を切る仕組みになっています。 → 「おかしいな?と思ったときの調べかた」(p.57)の手順 2 以降を行ってください。	57
電源を切っても、電源がしばらく切れなかったり、切れるまで時間がかかる。	● システムの終了や情報の更新を行うため、実際に電源が切れるまで、しばらく時間がかかることがあります。	−

■ 本機の操作全般

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
本機が動かない。 本機の操作ができない。	● その操作が禁止されているときは、“⊘”またはメッセージが表示されます。	25
	● リモコンの乾電池が消耗していませんか?	17
	● ご購入後に初めて電源を入れたときや、“個人情報初期化”を行った後に再び電源を入れたときは、“かんたん設定”画面が表示されます。	19
	● “かんたん設定”実行中は、再生できません。	−
	● 機器内部に何らかの異常が発生している可能性があります。このような場合、強制的に電源を切る仕組みになっています。 → 「おかしいな?と思ったときの調べかた」(p.57)の手順 2 以降を行ってください。	57
本機の設定画面やサブメニューが選べない。 表示されない項目がある。	● 設定や項目の操作ができないときは、選べない場合や、表示されない場合があります。	−
	● テレビの入力切換が、本機を接続した入力に設定されていますか?	−
本機が正常に動作しない。	● 結露が起こっていませんか? → 電源を入れたまま、2時間以上お待ちください。	10
ディスクトレイの開閉ができない。	● 本体ソフトウェア(ファームウェア)更新中はディスクトレイの開閉ができません。	−
	● 本機で使用できないディスクを本機に入れた場合は、トレイの開閉ができなくなることがあります。 → 「おかしいな?と思ったときの調べかた」(p.57)の手順 2 以降を行ってください。	57
ディスクを入れてから、しばらく操作ができない。	● ディスクの認識と情報の読み込みを行うため、ディスクが実際に使用可能になるまでしばらく時間がかかります。	−
USB機器の操作ができない。 USB機器の内容が読めない。	● 本機で対応しているUSB機器を接続していますか?	28
	● USB端子にしっかり差し込まれていますか?	30
USB機器をつないでいて、途中から本機の操作ができなくなった。	● USB機器の再生中に接続に異常が発生し、本機の操作ができなくなっています。 →USB機器を取り外して、再度接続してください。	30

リモコン

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
リモコンがはたらかない。	● リモコン受光部に向けて操作していますか?	12
	● リモコン受光部から離れたところから操作していませんか?	17
	● 乾電池が消耗していませんか?	17
	● 乾電池の向き(⊕と⊖)が正しいか確認してください。	17

再生

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
再生できない。 再生画面が出ない。	● テレビの入力切換が、本機を接続した入力に設定されていますか?	18
	● ▶ を5秒間長押ししてください。“HDMI接続設定”の“解像度設定”を初期値(“自動”)に戻すことができます。	−
	● 視聴制限を解除するか、視聴制限レベルを変更してください。	51
タイトルの最初から再生が始まらない。	● つづき再生(レジュームポイント設定状態)になっていませんか?	33 41 43
映像や音声が一瞬止まる。	● 2層ディスクの再生中は、1層目と2層目が切り換わるときに映像や音声が一瞬止まることがあります。	44
画面サイズがおかしい。	● “TV画面選択”をテレビの形状に合わせて選択していますか?	46
	● 4:3 16:9 LB 16:9 PS のように、DVD側で画面サイズが指定されているときは、違う種類で表示されることがあります。	46
再生中に操作ができない。	● ディスクによってはその操作を禁止している場合があります。	−
	● ディスクによっては、本機では再生速度の切り換えなどができない場合があります。	−
タイトルを選択しても再生が始まらない。	● 視聴制限によって再生を禁止している可能性があります。視聴制限レベルの設定をご確認ください。	51
“🚫”が表示される。	● 再生中のコンテンツで禁止されている操作です。	−
JPEGファイルが見つからない。	● 最大ファイル数を超えていないかご確認ください。	41
	● JPEGファイルの拡張子が(.jpg/.JPG/.jpeg/.JPEG)になっていますか?	−
再生中に一瞬画像が止まる。	● 本機で対応しているディスクかご確認ください。	27
	● ディスクにキズがあったり、指紋などで汚れている場合は、正常に再生できない場合があります。ディスクを清掃したり、キズのないディスクと取り換えて再生してください。	−
	● ディスクに記録されたデータに問題がある可能性があります。	−
再生中の映像が乱れる。 再生中の映像が映らない。 再生中の色がおかしくなる。	● 早送り/早戻しなどをすると、映像が多少乱れることがあります。	−
	● 携帯電話など、電波を発する機器を近くで使用していませんか?	−
	● 本機とテレビの電源は入っていますか?	−
	● 接続をしている機器の接続をご確認ください。	13
	● 本機で対応しているディスクかご確認ください。	27
	● 本機が対応していないディスクや、異なるリージョンコードのディスクが入っていませんか? - 本機が対応しているリージョンコードは、BD-Videoは「A」、DVD-Videoは「2」または「ALL」です。	27
	● テレビはHDCPに対応していますか? - HDCPに対応していない場合、正常に映像が出力されません。お手持ちのテレビやAVアンプなどについては取扱説明書をご覧ください。	−
	● 電源を入れたまま、HDMIケーブルをテレビと本機から抜き挿ししてみてください。	−
	● 別のHDMIケーブルに取り替えて、接続しなおしてください。	−
	● “映像設定”の設定をご確認ください。	46

困ったときは・つづき

字幕が出ない。	● 字幕情報がないタイトルについては、字幕を切り換えできません。	ー
AVアンプから音声が出ない。	● AVアンプの電源が入っているかご確認ください。	ー
	● AVアンプの出力が正しいかご確認ください。(詳しくは、AVアンプの取扱説明書をご覧ください。)	ー
	● AVアンプがビットストリームまたはLPCMに対応しているかご確認ください。(詳しくは、AVアンプの取扱説明書をご覧ください。対応している場合は、本機の“HDMI設定”から“音声出力設定”を設定してください。)	ー
	● AVアンプの音量を調節してください。	ー
カメラアングルが切り換わらない。	● 複数のアングルが記録されていないBD-VideoまたはDVD-Videoは、アングルを切り換えられません。	ー
	● カメラアングルが切り換え可能な場面以外では、切り換えできません。	ー
ハイビジョン画質で見ることができない。	● ハイビジョンで記録されたタイトルかご確認ください。(ハイビジョンで記録されていない映像を、ハイビジョン画質で見ることはできません。)	ー
	● 本機と接続しているテレビがハイビジョンに対応しているかご確認ください。	ー
ディスクの写真や画が再生できない。	● ディスクがUDF、ISO9660またはJOLIETフォーマットで記録されたものであるかご確認ください。	ー

■ CECリンク制御

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
CECリンク制御がはたらかない。	● CECリンク制御は、本機と対応機器を組み合わせて、必要な設定を行っている場合だけ使えます。	20
	● CECリンク制御が有効な状態で、本機の電源プラグやHDMIケーブルを抜いた場合は、CECリンク制御が無効となります。 → 電源コードやHDMIケーブルを接続後、“HDMI接続設定”－“CECリンク制御”の設定を一度“切”に変更して決定したあともう一度設定を“入”に変更して決定すると、再びCECリンク制御が有効になります。	20

■ ネットワーク

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
ネットワークに接続できない。	● モデムやルーターの電源が入っているか確認してください。	ー
	● モデムやルーターのインターネットランプが点灯しているか確認してください。	ー
	● 本機のネットワーク設定を確認してください。	21
	● 本機とルーターが正しく接続できているか確認してください。	16
	● ルーターのDHCP機能を「入」に設定してください。	ー

■ その他

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
パスワードを忘れた。	● パスワード入力画面が表示されたときに、4737を入力してください。パスワードと制限設定値がクリアされます。(このパスワードは視聴を制限される方にわからないようにご注意ください。)新しいパスワードを作成し、設定しなおしてください。	52

用語説明

■ あ

インターレース(飛び越し走査)(p.47)
- テレビに映像を映すときに従来から行われている方式で、1つの画像(有効走査線)を1本飛ばしの半分ずつ2回に分けて表示します。これにより、1つの画像を1/30秒(30コマ/秒)で映します。

■ か

拡張子(p.40)
- ファイル名の末尾につけられた文字列のことで、各種ファイルの属性を識別します。

■ さ

サブサンプリング(p.41)
- JPEGファイルを圧縮する処理のことで、色の情報を間引いて容量を小さくすることです。

視聴制限(パレンタルレベル)(p.47)
- デジタル放送やソフト側で設定された、視聴を制限するための機能です。レベルの強弱によって、暴力シーンなどを子供に見せないようにすることができます。

■ た

タイトル(p.29)
- ディスクに記録された番組などの大きな区切りのことです。

チャプター(p.29)
- タイトルの中の小さな区切りのことです。

ディープカラー(p.47)
- ディープカラーに対応した機器同士をHDMIケーブルで接続したときに、映像を高階調表示に変換してグラデーションの色の変化をなめらかに表現できる技術のことです。

トラック(p.29)
- 音楽用CDの曲ごとの区切りを「トラック」といいます。

■ は

バーチャル・パッケージ(p.39)
- 一部のBD-Videoでは、他のメディア(ローカルストレージ)にデータをコピーして再生しながらいろいろな機能を楽しむことができ、このようなディスクをバーチャル・パッケージと呼んでいます。データのコピーや再生のしかたなどは、BD-Videoによって異なります。

パンスキャン(p.46)
- 標準テレビ(4:3)にワイド映像を映す方法の1つで、映像の上下方向が画面いっぱいに表示され、左右方向が一部カットされます。

ビットストリーム(p.47)
- 圧縮されてデジタル信号に置き換えられた信号のことで、対応しているアンプなどによってそれぞれに合った信号に変換されます。

ブロードバンド(p.15)
- 高速かつ大容量のデータ通信を可能にする帯域幅の広いネットワーク回線や通信環境のことです。

プログレッシブ(順次走査)(p.47)
- テレビに映像を映すときに、1つの画像(有効走査線)を一度に表示し、1/60秒(60コマ/秒)で映します。
インターレース出力に対し、ちらつきの少ない高密度の映像を楽しめます。

ブロックノイズ(p.44)
- 電気信号の乱れにより発生するノイズの一種で、モザイク状の画像の乱れのことです。

プロバイダー(p.15)
- インターネットサービスプロバイダーの略称でISP(Internet Service Provider)とも呼ばれます。各端末からインターネットへの接続を供給するために運営される電気通信事業者のことです。

本体ソフトウェア(ファームウェア)(p.23)
- 本機の動作に必要な処理を行うための中枢的なプログラム(ソフトウェア)です。

■ ま

モデム(p.15)
- デジタルデータを音声信号に変換して電話回線に流したり、電話回線を通じて聞こえてくる音声信号をデジタルデータに変換したりするデータ回線終端装置です。

■ ら

リージョンコード(再生可能地域番号)(p.27)
- BD-VideoやDVD-Videoは、国によって再生できる記号や番号が分けられており、これらをリージョンコードと呼びます。日本の場合、BD-Videoは「A」、DVDVideoは「2」になっており、本機ではその記号または番号を含んだソフトだけ再生することができます。

ルーター(p.16)
- 複数のネットワーク間でのデータ通信を中継するための機器のことです。

レジュームポイント(p.41、43)
- 再生中に停止したときの停止位置を記憶します。

レターボックス(p.46)
- 標準テレビ(4:3)にワイド映像を映す方法の1つで、映像の左右方向が画面いっぱいに表示され、上下方向に帯がつきます。

■ ABC

AAC(p.43、44)
- Advanced Audio Codingの略で、音声符号化の規格の1つです。AACは、CD並みの音質データを約1/12にまで圧縮できます。また、5.1chのサラウンド音声や多言語放送を行うこともできます。

ADSL(p.15)
- 一般の電話回線を使うブロードバンドの一種で、音声信号より高い周波数帯で高速通信を行うために開発された技術です。

AVCHD(p.27)
- ハイビジョン画質の映像をハイビジョン対応デジタルビデオカメラでディスクやSDカードなどに記録できるように開発された規格です。

AVCREC™(エーブイシーレック)(p.27)
- デジタル放送をハイビジョン画質でDVDに記録する方式です。ディスクをファイナライズすることで、AVCREC™方式対応のプレーヤーやレコーダーで再生できます。

AVアンプ(p.14)
- 様々な音響機器、映像機器を接続し、集中的にコントロールできる機能を備えたアンプです。

用語説明・つづき

BD-Live™(ビーディーライブ)(p.15)
- BD-Live™は、BD-Video(BD-ROM Profile 2.0)の新しい再生機能で、インターネットに接続し追加映像や追加字幕のダウンロード、BD-Jによる通信対応ゲームなどのインタラクティブな機能を利用できます。

CECリンク制御(p.20、47)
- HDMIケーブルを使って対応機器とつなぐことで、機器との連動操作が行えるようになる機能です。

DLNA(ディーエルエヌエー)(p.42)
- Digital Living Network Allianceの略で、お持ちのDLNA対応機器を同一ネットワーク内で相互接続し、他機で録画されたコンテンツの閲覧などを可能にするための規格です。

Dolby D(ドルビーダイナミック)レンジ(p.46)
- Dolby Digitalで記録されたタイトルの音声レベルの最小値と最大値の差のことをいい、夜間などに音量を下げて小さい音にしたときでも聞きやすく再生することができます。

Dolby Digital(ドルビーデジタル)(p.14)
- Dolby Digitalは、ドルビー社が開発したデジタル音声を圧縮して記録する方式です。この技術をPCM記録の代わりに用いることで記録容量を節約することが可能となり、より高い解像度(ビットレート)の映像や、より長い記録時間を実現することが可能になります。

Dolby Digital Plus(ドルビーデジタルプラス)(p.14)
- Dolby Digital Plusは、Dolby Digitalをさらに高音質、5.1ch以上の多チャンネル対応、広いビットレート化した音声方式です。ブルーレイディスク規格では最大7.1chまで対応しています。

Dolby TrueHD(ドルビートゥルーエイチディー)(p.14)
- Dolby TrueHDは、DVDオーディオで採用されているMLPロスレスの機能拡張版で、スタジオマスターの音声データを高品位で再生する音声方式です。ブルーレイディスク規格では最大7.1chまで対応しています。

DTS® (p.44)
- DTS社が開発した、デジタル音声システムです。DTS対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS-HD® (p.44)
- DTS®をさらに高音質・高機能化した音声方式で、下位互換により従来のDTS対応アンプでもDTS®として再生できます。ブルーレイディスク規格では最大7.1chまで対応しています。

FAT16 / FAT32 (p.28)
- ファイルシステムと呼ばれるUSBメモリなど記録媒体で初期化する際に選択できるデータ管理方式です。一つの領域に確保される容量がそれぞれ異なります。

HDMI(p.14)
- High Definition Multimedia Interfaceの略で、テレビなどのデジタル機器と接続できるデジタルAVインタフェースです。
  映像信号と音声信号を1本のケーブルで接続できます。

JPEG(ジェイペグ)(p.40、41、43)
- Joint Photographic Experts Groupの略で、静止画像データの圧縮方式の1つです。ファイル容量を小さくできる割に画質の低下が少ないため、デジタルカメラの保存方式などで広く使われています。

LPCM(p.43)
- PCMはPulse Code Modulationの略で、LPCMはデジタル音声をそのまま圧縮せずに記録する方式です。

MPEG(エムペグ)(p.43)
- MPEGはMoving Picture Experts Groupの略で、動画音声圧縮方式の国際標準です。

NTSC(p.27)
- 日本やアメリカなどで採用されているカラー放送方式です。ヨーロッパなどで採用されているPALまたはSECAMなどのカラー放送方式とは互換性がないため、ヨーロッパなどで買ってきたDVD-Videoはこのカラー放送方式やリージョンコードの違いにより、視聴できないことがあります。

USB(p.28)
- Universal Serial Busの略で、周辺機器を接続するためのインタフェースです。本機では、USBメモリを接続して、写真(JPEG)の再生ができます。

Video(ビデオ)方式
- DVDレコーダーの基本記録方式です。ディスクをファイナライズすることで市販のDVD-Videoと同じ記録方式となり、多くのプレーヤーやレコーダーで再生できます。

VR(ブイアール)方式
- DVD Video Recording formatの略で、DVDレコーダーの基本記録方式です。ディスクをファイナライズすることで、VR方式対応のプレーヤーやレコーダーで再生できます。

さくいん